

Ⅷ. シラバス（博士前期課程）

○ 共通科目…………… 45 ～ 55

○ 専門科目

実践看護学分野

小児看護学…………… 56 ～ 66

母性看護学…………… 67 ～ 78

クリティカルケア看護学… 79 ～ 93

精神看護学…………… 94 ～ 106

がん看護学…………… 107 ～ 117

実践看護学特別研究…………… 118

地域看護管理学分野

老年看護管理学…………… 119 ～ 124

地域看護管理学…………… 125 ～ 130

診療看護技術管理学…………… 131 ～ 136

地域看護管理学特別研究…………… 137

授 業 科 目 名	看護管理・政策論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山 早苗、加藤典子・水流聡子・平野真紀・福田順子（非常勤） ○概要：看護マネジメントや看護サービスの組織化、施策化など看護管理における理論と看護管理の過程、活動方法を教授する。保健医療福祉システムの中で質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割、高度実践看護職の行う医療チーム内の調整や保健医療福祉関係者間の調整、管理的立場にある看護職との協働に関わる活動方法を教授する。またケアの質向上や看護職の資質向上のための制度改革や政策決定過程への高度実践看護職の働きかけについて教授する。				
授業内容				
第 1 回	看護制度の変遷と構造			（加藤）
第 2 回	看護政策の基本的考え方と政策過程			（加藤）
第 3 回	資格制度に関する政策の課題			（加藤）
第 4 回	人材確保策に関する政策の課題			（平野）
第 5 回	保健医療福祉制度の課題と高度実践看護職の関わり			（平野）
第 6 回	政策課題に関する討議			（平野）
第 7 回	情報管理と看護政策、日本の保健医療福祉制度下における情報管理の課題			（水流）
第 8 回	看護情報の標準化と医療・看護の質保証に向けての政策課題			（水流）
第 9 回	看護管理論と看護組織論			（福田）
第 10 回	看護管理の過程、看護管理の組織と運営の実際と課題			（福田）
第 11 回	看護マネジメントと人的資源活用論			（春山）
第 12 回	チーム医療を進める組織運営			（福田）
第 13 回	リスクマネジメントの実際と課題			（福田）
第 14 回	看護職のキャリア開発の実際と高度実践看護職の機能・役割			（福田）
第 15 回	高度実践看護職の行う保健医療福祉に携わる人々の調整			（春山）
第 16 回	高度実践看護職の行う看護管理に携わる看護職との協力			（春山）
評 価 方 法	レポート等の記録物の提出（30%）、授業への参加態度（プレゼンテーションおよび討議内容を含む）（70%）			
テ キ ス ト	野村陽子：看護制度と政策、法政大学出版局、2015.			
履修上の留意事項	・本科目は、専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護管理論」（1 単位）、「看護政策論」（1 単位）に相当する。 ・事前準備（予習）として、保健師助産師看護師法を一読し、また看護管理の基本について自己学習した上で授業に臨むこと。事後（復習）は、現在の看護政策の動向および実践現場の看護管理上の課題に対し、本科目で学修したことを適用し、高度実践看護職としての活動方法を考えること。			

授 業 科 目 名	病態生理学特論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	倉科 智行			
到 達 目 標	日常的によくみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、エビデンスに基づいた病態生理学の状態を判断するために必要な知識と技術を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：倉科智行、村上礼子、佐藤幹代、長谷川直人 竹下克志・高山 剛（非常勤講師）				
○概要：臓器別の恒常性維持機能を踏まえた上で日常的によく見られる病態について学習し、原因・症状と経過・診断と治療の原則を系統的に教授する。より高度な看護実践に向け、エビデンスに基づいた病態生理学の状態を判断できるよう、事例演習を交えて教授する。				
授業内容				
第 1・2 回	総論			(倉科)
	・病態とは何か～疾患・症状との関連 糖代謝異常を例に ・臨床推論の考え方と活用			
第 3 回	各論 1	感覚機能とその障害 (疼痛、眩暈)		(倉科)
第 4 回	各論 2	運動機能とその障害 (外傷、変性疾患、ロコモティブ・シンドローム)		(竹下)
第 5 回	各論 3	血液とその障害 (貧血、免疫異常)		(倉科)
第 6 回	各論 4	呼吸機能とその障害 (呼吸困難、喘息、肺炎、閉塞性肺疾患)		(倉科)
第 7 回	各論 5	循環機能とその障害 (高血圧、ショック、不整脈、狭心症、心筋梗塞)		(倉科)
第 8 回	各論 6	腎機能と体液、酸塩基調節とその障害 (排尿障害、尿路感染症、浮腫)		(倉科)
第 9 回	各論 7	消化・吸収機能とその障害 (下痢、便秘、嚥下障害、腹痛)		(倉科)
第 10 回	各論 8	脳・神経機能とその障害 (脳血管障害、脳腫瘍)		(倉科)
第 11 回	各論 9	内分泌機能とその障害 (糖尿病、骨粗しょう症)		(倉科)
第 12 回	各論 10	生殖機能とその障害 (更年期障害)		(高山)
第 13 回	よくみられる主訴に関するケーススタディ演習 1 胸痛を訴える患者の病態生理学的变化と看護実践の判断方略			(倉科)
第 14 回	よくみられる主訴に関するケーススタディ演習 2 呼吸困難を訴える患者の病態生理学的变化と看護実践の判断方略			(倉科)
第 15 回	よくみられる主訴に関するケーススタディ演習 3 腹痛を訴える患者の病態生理学的变化と看護実践の判断方略			(倉科)
評 価 方 法		授業への参加態度・プレゼンテーション (50%)、演習 (50%)		
テ キ ス ト		清村紀子、工藤二郎編：機能障害からみたからだのメカニズム、医学書院、2014.		
履修上の留意事項		本科目は、専門看護師教育課程 (38 単位) の共通科目 B 群「病態生理学」(2 単位) に相当する。 事前準備として、テキストの他、自ら文献にあたり、1 人 1～2 テーマでプレゼンを行ってもらおう。本科目で学んだことは、「フィジカルアセスメント特論」受講に活かすこと。		

授業科目名	フィジカルアセスメント特論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科目責任者	村上 礼子			
到達目標	高度実践看護職として、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、倉科智之、古島幸江、山内豊明・松村正巳・竹下克志・間藤尚子・鯉沼広治・三須侑子 阿久津美代・谷島雅子(非常勤講師)				
○概要：高度実践看護職として、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を的確にアセスメントし、臨床判断を行うために、高度な知識・技術の修得についてシミュレーション学習を取り入れながら教授する。 特に、対象の複雑な病態に対する臨床判断プロセスを磨くための技能を教授する。				
授業内容		受講コンテンツ：臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ		
第1回	Advanced 呼吸器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	第2回、第5-6回、第13-14回		
第2回	Advanced 循環器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	第2回、第5-6回		
第3回	Advanced 消化器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	第2回、第7-8回		
第4回	Advanced 腎・泌尿器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	第2回、第7-8回		
第5回	Advanced 筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	第1回、第2回、第15-16回		
第6回	Advanced 脳神経系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	第1回、第2回、第9-10回、第11-12回		
第7回	Advanced 内分泌代謝系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診) と臨床判断	対面演習(倉科) / (村上)		
第8回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ① 意識障害 ② 頭痛	対面演習(谷島) / (村上)		
第9回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ③ 複雑な健康問題 / 意識障害・頭痛(事例演習)	対面演習(谷島) / (村上)		
第10回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ④ 複雑な健康問題 / 頭痛(事例演習)	対面演習(村上) / (倉科)		
第11回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑤ 胸痛	対面演習(阿久津) / (古島)		
第12回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑥ 複雑な健康問題 / 胸痛(事例検討)	対面演習(阿久津) / (古島)		
第13回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑦ 呼吸困難	対面演習(福田) / (古島)		
第14回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑧ 複雑な健康問題 / 呼吸困難(事例検討)	対面演習(福田) / (古島)		
第15回	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ⑨ 腹痛 ⑩ 複雑な健康問題 / 腹痛(事例演習)	対面演習(村上) / (古島)		
評価方法	参加態度 20%、討議内容 60%、課題 20%をもとに総合的に評価する。			
テキスト	山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック目と手と耳でここまでわかる(第2版)、医学書院、2012. 適宜、論文を紹介または提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、専門看護師教育課程(38単位)の共通科目B「フィジカルアセスメント」(2単位)に相当する。自治医科大学 Moodle の「臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ」の事前テストを受け、各該当回のコンテンツを受講し、事後テストを満点になるまで受講し、対面演習に備える。授業展開後は、知識やスキルの確認に努め、それらの確実な修得を目指す。			

授 業 科 目 名	臨床薬理学特論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	大塚 公一郎			
到 達 目 標	(1) 薬物の人体における作用機序と体内動態の基礎を理解する。 (2) 薬物の有益な効果と有害な効果に関する知識に基づき、臨床における薬物使用とその調整について考えることができる。 (3) 緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための専門看護師の実践について考えることができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：大塚公一郎・小原 泉・今井靖・相澤健一・澤城大悟・桂田健一・星出聡・田中優子・米川力・矢野晴美・山口博紀・井上荘一郎・牧野好倫・倉科智行・東めぐみ・宮原富士子（非常勤） ○概要：薬剤の人体における作用機序と体内動態、有害作用、治療薬物モニタリング等の臨床薬理学の基礎的知識を教授する。緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬物療法について、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を教授する。				
授業内容				
第 1 回	臨床薬理学とは／最新情報の入手とその理解			(今井)
第 2 回	薬の作用と作用機序			(相澤)
第 3 回	薬の吸収・分布・代謝・排泄／薬の有害反応・薬物相互作用・中毒			(桂田)
第 4 回	治療薬物モニタリング (TDM) ／症状モニタリング			(澤城)
第 5 回	状況別の臨床薬理学(1) 血圧と薬 (降圧剤)：使用薬物、使用の判断、有害事象等			(星出)
第 6 回	状況別の臨床薬理学(7) 精神疾患：使用薬物 (抗不安薬、睡眠薬を含む)、使用の判断、有害事象等			(大塚)
第 7 回	状況別の臨床薬理学(6) 救命救急・生命危機状況時の臨床薬理：使用薬物 (鎮静剤含む)、使用の判断等)			(米川)
第 8 回	状況別の臨床薬理学(2) 感染症と薬 (感染症と薬の基本用語、抗菌薬とその作用、抗菌薬の副作用、抗菌薬の相互作用			(矢野)
第 9 回	状況別の臨床薬理学(4)がん：使用薬物、使用の判断、有害事象等			(山口)
第 10 回	状況別の臨床薬理学(5)疼痛コントロール：使用薬物、使用の判断、有害事象等			(井上)
第 11 回	薬剤師の臨床実践現場におけるモニタリング・薬物調整と看護職との協働(1) 入院治療中の患者の薬剤調整			(牧野・小原)
第 12 回	状況別の臨床薬理学(3) 糖尿病：使用薬物、使用の判断、有害事象等)			(倉科)
第 13 回	看護職による患者の生活調整・回復力促進のための薬剤調整 (薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、服薬指導、生活調整) (2)：事例検討 (講師が示した事例についての意見交換)			(東・小原)
第 14 回	看護職による患者の生活調整・回復力促進のための薬剤調整 (薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、服薬指導、生活調整) (1)：事例検討 (講師が示した事例についての意見交換)			(田中) (小原)
第 15 回	薬剤師の臨床実践現場におけるモニタリング・薬物調整と看護職との協働(2) 在宅療養中の患者の院内・院外処方の処方箋疑義照会による薬物調整			(宮原・小原)
評 価 方 法	参加・討議内容 45% (各回 3%)，課題レポート 55% (6・15 回 8%、1～5 回・9～14 回 3%)			
テ キ ス ト	大橋京一，藤村昭夫，渡邊裕司編：疾患からみた臨床薬理学，第 3 版，じほう，2012.			
履修上の留意事項	本科目は、専門看護師教育課程 (38 単位) の共通科目 B「臨床薬理学」(2 単位) に相当する。各回の分担教員より、随時、事前準備 (予習) の課題が出されるので、テキストを一読し、不明確な点を明確化した上で授業を受けること。事後の展開 (復習) の課題についても、各回の分担教員の指示に従って行い、該当する授業の理解を確実なものとする。			

授 業 科 目 名	看護実践研究論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	半澤 節子			
到 達 目 標	看護学分野における研究の発展について理解し、自らの臨床経験を踏まえながら、先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し、適切な研究方法とその展開方法について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：半澤節子、永井優子				
○概要：看護実践の質の向上における看護研究の重要性、研究課題の検討にあたり必要となる文献検討、研究論文のクリティックの実際、各種研究方法、看護研究倫理など、看護研究の具体的展開について教授する。また、院生の研究関心に基づく研究課題を明確にしながら、先行研究を踏まえた理論的枠組みの設定、適切な研究方法の選定について検討し、研究計画書作成への基礎的知識の修得を目指す。				
○授業内容				
第 1 回	看護実践における研究の重要性と理論との関係 1			(永井)
	・高度看護実践における研究活動の意味、Evidence-Based Practice 環境と看護研究			
第 2 回	看護実践と研究の発展			(永井)
	・看護実践と看護研究の発展の歴史、高度看護実践における研究とエビデンスレベル			
第 3 回	看護実践研究における倫理			(永井)
	・研究倫理の歴史、高度実践看護職に求められる看護研究倫理			
	・高度看護実践における研究活動の人権擁護、研究承諾、実践の場の研究倫理審査			
第 4 回	看護実践における研究の重要性と理論との関係 2			(永井)
	・高度看護実践で活用する理論とは、看護研究の実践における活用と看護のエビデンス			
第 5 回	自己の看護実践における研究課題について、関連する理論、看護研究倫理についての検討			(永井)
第 6 回	研究目的と研究方法 1			(永井)
	・看護実践上の疑問と研究疑問、研究目的と研究の意義			
第 7 回	研究目的と研究方法 2			(永井)
	・文献検討の意義と方法、研究計画書に必要な項目、研究デザイン			
第 8 回	看護実践向上に役立つ研究のための文献検討			(半澤)
第 9 回	研究目的を達成するための研究方法の選択			(半澤)
第 10 回	看護実践の場における研究			(半澤)
第 11 回	科学的に課題を探究するための研究課題の設定：文献検索により研究課題の検討			(半澤)
第 12 回	科学的に課題を探究するための研究方法の検討：対象、方法、結果の整合性の検討			(半澤)
第 13 回	科学的に課題を探究するための研究結果の示し方：結果、考察、結論の整合性の検討			(半澤)
第 14 回	看護実践の質の向上に役立つ研究計画書の作成			(半澤)
	・研究課題の焦点化、キーワードの明確化、概念枠組みと仮説の設定			
第 15 回	看護実践の質の向上に役立つ研究計画書の作成；実証可能な研究方法と再現性			(半澤)
評 価 方 法	課題レポート(40%)、プレゼンテーション内容(30%)、討議内容 (30%) から総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	1. 南裕子、野嶋佐由美編：看護における研究（第 2 版）．日本看護協会出版会, 2017. 教科書（半澤） 2. Gray JR,Grove SK., Sutherland S.: The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 8th ed., Elsevier, Saunders, 2016. 参考書（永井）			
履修上の留意事項	・本科目は、専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護研究」（2 単位）に相当する。 ・事前準備（予習）として、教科書を一読し、不明確な点を明確化した上で授業を受けること。事後の展開（復習）として、自らの研究課題、先行文献の整理を踏まえた研究目的の明確化、研究方法について検討し、11 月の合同研究セミナーにおいて研究構想を発表できるよう準備を進めていく。			

授 業 科 目 名	コンサルテーション論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
授 業 目 標	コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討する。看護カウンセリングの実際にふれながら、ロールプレイやコンサルテーション体験にもとづいてコンサルテーションの実際について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、広瀬寛子・本看護学研究科修了専門看護師（非常勤） ○概要:看護実践で行うコンサルテーションに関する理論を踏まえて、高度実践看護職が必要とするコンサルテーション技能と役割について検討する。				
授業内容				
第 1 回	コンサルテーションに関する理論 1 コンサルテーションの定義、タイプ、モデル、役割			(永井)
第 2 回	コンサルテーションに関する理論 2 コンサルテーションのプロセス、 コンサルタントとコンサルティとのダイナミクス			(永井)
第 3 回	コンサルテーションに関する理論 3 コンサルテーションの評価、コンサルタントの資質			(永井)
第 4 回	コンサルテーションの活用 コンサルタントの活用、コンサルテーションの活用、活用される領域			(永井)
第 5 回	看護実践におけるコンサルテーションの活用状況 看護実践におけるコンサルタントの活用、活用される領域			(永井)
第 6 回	看護実践におけるコンサルテーションの活用の実情と必要性に関する討議			(永井)
第 7 回	看護職のサポートとしてのコンサルテーション 1 アサーションと看護、看護職自身の振り返りの方法			(永井)
第 8 回	看護職のサポートとしてのコンサルテーション 2 専門看護師の役割と活動組織とコンサルテーション			(永井) (専門看護師(非常勤))
第 9 回	看護職のサポートとしてのコンサルテーション 3 コンサルテーションとリエゾン精神看護			(永井)
第 10 回	看護カウンセリングとコンサルテーションの実際 1 看護カウンセリングから見たコンサルテーション			(広瀬)
第 11 回	看護カウンセリングとコンサルテーションの実際 2 看護の対象者および看護職自身の問題に焦点を当てたコンサルテーションの実際			(広瀬)
第 12～ 14 回	グループコンサルテーションおよびスーパービジョンの体験的演習 事例の提出者をコンサルティとし、他の受講生はグループコンサルタントとして、 コンサルテーションを試みる。一事例を終了した後に、全員でコンサルテーションのプロセスを振り返り、検討する。			(広瀬・永井)
第 15 回	体験的演習の共有とまとめ			(広瀬・永井)
評 価 方 法	各回の討議内容(40%)、プレゼンテーション(30%)、課題レポート(30%)			
テ キ ス ト	1) Geraldine S. Pearson (2019). Consultation. In A. B. Hamric, C. M. Hanson et al (Eds.), <i>Advanced practice nursing; An Integrative Approach</i> (6 th ed., pp.203–255). Philadelphia: Saunders 2) 広瀬寛子(2003).看護カウンセリング, 第 2 版, 医学書院 3) 広瀬寛子(2011).悲嘆とグリーフワーク, 医学書院 その他の文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は専門看護師教育課程(38 単位)の共通科目 A「コンサルテーション論」(2 単位)に相当する。第 10 回以降は 2 日間(各日 3 コマ)に集中して行う。初回に受講生がコンサルティとして検討したい事例の準備について具体的に指示する。なお、履修人数によって演習方法を調整する。初回にテキスト 1)を準備して、各回の課題について検討できるように準備をして取り組む。体験的演習の終了後の学びについてレポートを提出するために、十分にリフレクションをする。			

授 業 科 目 名	看護倫理	共通科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	医療の現場における生命倫理の現実的な課題と看護職の倫理的行動、および看護場面において複雑な判断を要する倫理的課題に関する関係職種間の調整・提言等、看護専門職としての立場から果たすべき機能について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、加藤直克・渥美一弥・服部健司（非常勤）				
○概要：保健医療および福祉の現場における倫理的課題と看護職の倫理的行動および責務を教授する。看護場面において複雑な判断を要する倫理的葛藤・課題について、関係者間での倫理的調整活動に必要な知識、および高度実践看護職が果たすべき機能について教授する。				
○授業内容				
第1回～第2回 看護職の倫理的行動と倫理的責任				
第1回 看護における倫理的行動の規準			(小原)	
第2回 看護職の倫理的責任			(小原)	
第3回～第4回 看護実践における倫理的分析和倫理的意思決定				
第3回 看護実践における倫理的分析			(小原)	
第4回 倫理的意思決定プロセスと倫理的行為の実践			(小原)	
第5回～第6回 ケアの倫理				
第5回 ケアとは何か、その哲学的考察			(加藤)	
第6回 現代医療の特質とケアの倫理			(加藤)	
第7回～第8回 保健医療専門職に対する倫理教育				
第7回 保健医療専門職に対する倫理教育の基本的課題			(服部)	
第8回 看護職に対する倫理教育			(服部)	
第9回～第15回 臨床における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割				
倫理的調整活動に関する実践事例を用いて臨床における倫理的調整の課題と高度実践看護職の役割について検討する。				
第9回 移植医療に伴う倫理的調整課題と高度実践看護職の役割			} (加藤・渥美・小原)	
第10回 終末期医療に伴う倫理的調整課題と高度実践看護職の役割				
第11回 看護管理者が抱える倫理的調整課題				
第12回 家族支援における倫理的調整課題と高度実践看護職の役割				
第13回 診療をめぐる医師との倫理的調整課題と高度実践看護職の役割				
第14回 インフォームド・コンセントをめぐる倫理的調整課題と高度実践看護職の役割				
第15回 高度実践看護職の行う倫理的調整のまとめ				
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（25%）と討議内容（25%）、最終レポート（50%）をもとに総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	医療倫理学のABC 第4版、井部俊子監修、服部健司・伊東隆雄編著、メヂカルフレンド社、2018.			
履修上の留意事項	・本科目は専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護倫理」（2 単位）に相当する。 ・第9回～15回は、プレゼンテーションとディスカッションによる演習形式の授業である。倫理的課題や高度実践看護職に役割について多角的かつ柔軟な視点で議論を深めることを期待しているので、それに相応しい学習態度で取り組むこと。事前および事後の学習課題に十分取り組むこと。			

授 業 科 目 名	看護継続教育論	共通科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	塚本 友栄			
到 達 目 標	看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけとして、様々な学習形態をとる教育環境づくりの方策について理解する。看護継続教育の実際から、看護ケアの質向上の基盤となる教育的関わりの方策を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：塚本友栄、本田芳香・福田順子（非常勤） ○概要：看護継続教育に関する諸理論、看護実践能力育成を図るための方策に関する知識と技術を教授する。高度実践看護職が、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけとして、教育現象を経験学習の視点から体系的に計画された学習、個々人の自律的な学習を推進するための教育環境づくりに関する方策及び、教育的関わりの方策を教授する。				
○授業内容				
第 1 回～第 6 回 看護継続教育に関わる諸理論、看護実践能力の育成を図るための方策など、看護継続教育に必要な知識と技術を教授する。				
第 1 回	科目ガイダンス、および生涯学習における看護継続教育の現況について概説する。	（塚本・本田）		
第 2 回	看護継続教育に関わる経験学習理論、リフレクションなどの諸理論について概説する。	（本田）		
第 3 回	卒前・卒後教育の一環として看護基礎教育と新人教育の現況を概説し、看護実践能力の育成を図るための方策について考究する。	（本田）		
第 4 回	ジェネラリストを育成、スペシャリストを育成する教育の現況を概説する。	（本田）		
第 5 回	看護管理者育成、看護継続教育における教育者、研究者を育成する教育の現況を概説する。	（本田）		
第 6 回	看護実践における組織内・外の看護継続教育の現状と課題について討議し、考究する。	（本田）		
第 7 回～第 11 回 高度実践看護職が、看護ケアの質を高めるため看護職に必要な教育的働きかけとして、様々な学習形態をとる教育環境づくりに関する方策を教授する				
第 7 回	高度な看護実践に必要な授業デザイン及び評価方法に関する知識と技術を概説する。	（塚本）		
第 8 回	高度な看護実践に必要な看護継続ニーズ・アセスメント及び教育計画に関する知識と技術を概説する。	（塚本）		
第 9 回	高度実践看護職が、看護ケアの質を高めるために必要な教育的働きかけに言及し、事例または文献を用いてプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	（塚本）		
第 10 回	高度実践看護職が、様々な学習形態をとる教育環境づくりに言及し、事例または文献を用いてプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	（塚本）		
第 11 回	高度実践看護職が、高度な看護実践をするために必要な教育的働きかけと教育環境づくりに関する課題について討議する。	（塚本）		
第 12 回～第 15 回 各自の所属組織における看護継続教育の実際を通して、看護ケアの質を向上するための教育的関わりの方策を教授する。				
第 12 回	所属組織における必要な授業立案とその評価をおこなう。	（福田）		
第 13 回	所属組織における必要な教育プログラムを作成する。	（福田）		
第 14 回	上記で立案した教育計画及びその評価方法について討議する。	（福田）		
第 15 回	看護ケアの質を高めるための看護継続教育の実際を通して、今後取り組むべき自己課題を明確にし、改善策について考察する。	（本田）		
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（30%）、討議・授業への参加態度（30%）と各段階で求める課題レポート（40%）から総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。適宜紹介する。			
履修上の留意事項	本科目は、専門看護師教育課程（38 単位）の共通科目 A「看護教育論」（2 単位）に相当する。各教員より事前・事後の学習課題が提示されるため取り組むこと。			

授 業 科 目 名	地域医療論	共通科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	地域に根ざした医療や保健を展開する方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、塚本友栄、浜端賢次、小谷和彦・北田志郎（非常勤） ○概要：地域のニーズの捉え方、ニーズに即した医療の提供方法、地域の保健医療福祉施設等の有機的な連携、医療資源のアウトソーシングの実際について学修する。				
第1回	ガイダンス 地域医療序論 1（春山） 地域医療の概念ならびに、わが国の保健医療福祉システム変遷を踏まえた地域医療の歴史と現状について説明する。			
第2回	地域医療序論 2（小谷） 日本の地域医療において、自治医科大学の果たした役割を説明し、加えて自治医科大学地域医療学講座の地域医療の実践を説明する。			
第3～4回	包括保健医療・福祉サービス 1（北田） 国内外の実践例を通して、地域包括ケアと保健・医療・福祉サービスの提供体制について説明する。			
第5回	包括保健・医療・福祉サービス 2（塚本） 地域医療における関係機関間の連携と役割分担、関係職種間の連携と役割分担について説明する。			
第6～7回	包括保健・医療・福祉サービス 3（浜端） 在宅医療における関係機関間の連携と役割分担、関係職種間の連携と役割分担について説明する。			
第8回	地域医療と医療政策（小谷） これからの地域医療をめぐる医療政策のあり方について議論する。			
第9回	都道府県併記保健医療計画（小谷） 都道府県のへき地保健医療の充実を目的とした、地域医療分析とへき地保健医療計画の策定支援に関する研究を紹介する。			
第10回	地域医療を支える人材と確保・支援策（春山） 地域医療を支える保健医療福祉施設の人材について説明し、人材確保とその定着のための対策、ならびに支援体制について討議する。			
第11～12回	地域医療における看護の役割 1（春山・浜端） 地域医療における看護活動の展開事例を通して、現代の地域医療における看護の課題について提起する。			
第13～14回	地域医療における看護の役割 2（塚本・春山・浜端） 第11・12回講義を踏まえて、学生自身の実践経験等に基づき、現代の地域医療における看護の課題と要因を討議する。			
第15回	まとめとして総合討論（塚本・春山・浜端）			
評 価 方 法	授業への参加態度（50%）、プレゼンテーションおよびレポート（50%）			
テ キ ス ト	自治医科大学監修；「地域医療テキスト」、医学書院、2009			
履修上の留意事項	事前学習としてテキストや配布資料を一読し、ディスカッションに備えること。事後の展開として、各々が選択した領域が地域医療においてどのように位置づけられるか思考を深めること。			

授 業 科 目 名	地域調査法	共通科目	1 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗		
到 達 目 標	地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査の方法を理解する。また、調査で収集した資料やデータの分析方法、結果の読み方などを理解する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：春山早苗、大塚公一郎、関山友子、渡邊亮一（非常勤） ○概要：地域において効果的かつ効率的な看護活動・保健活動やその管理的活動を展開する上に必要な地域の健康問題や健康ニーズを把握するための質的な調査法や量的な調査法を講義や演習を通じて教授する。さらに、調査によって収集した資料やデータの分析方法、分析結果の読み方などを講義や演習を通じて教授する。			
第 1 回	地域調査において注意しなければならないこと（渡邊・関山）		
第 2 ～ 4 回	地域調査のための質問紙の作成方法（渡邊・関山）		
第 5 ～ 8 回	地域調査のための量的研究方法（関山）		
第 9 回	保健医療に関わる地域調査における質的研究法の概要と意義（大塚）		
第 1 0 ～ 1 1 回	医療におけるナラティブ・インタビュー ーグラウンデッド・セオリー・アプローチの演習を含む（大塚）		
第 1 2 回	保健医療の現場におけるエスノグラフィー的観察法 ーDVD を用いた演習を含む（大塚）		
第 1 3 回	看護活動における地域調査の目的と収集するデータの特質（春山）		
第 1 4 回	看護活動における地域調査の方法の特質（春山）		
第 1 5 回	看護における地域調査の有用性ーディベートによる研究論文のクリティーク（春山）		
評 価 方 法	授業への参加態度（約 15%）、プレゼンテーション（約 50%）およびレポート（約 35%）により総合的に評価する。		
テ キ ス ト	指定しない。関係書籍・論文を広く活用する。		
履修上の留意事項	統計学の基礎的な内容（統計量、仮説検定など）を事前学習しておくことが望ましい。授業後は、授業内容を他の講義や演習に活かす際に再度振り返りを行うこと。		

授業科目名	Academic Writing & Oral Presentation	共通科目	1～2年次(通年)	1単位
科目責任者	成田 伸			
到達目標	英文抄録の作成からプレゼンテーションまで、国際学会での研究発表に必要な知識と技術を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：成田 伸、鹿野 浩子 ○概要： 国際学会で研究発表を行うために必要な抄録の書き方、プレゼンテーションスキルを学修する。前半では英文抄録の書き方の基礎を学び、最終的に数ページのサイエンスペーパーが書ける技術を学修する。後半では、英文抄録をもとに国際学会で発表するためのプレゼンテーションスキルを修得する。				
授業内容				
第1回	Unit 1: パラグラフライティングとは			(成田・鹿野)
第2回	Unit 1: パラグラフライティングの構成			(鹿野)
第3回	Unit 2: 一貫性のあるパラグラフライティングの書き方			(鹿野)
第4回	Unit 3: 3つのタイプのパラグラフのタイプ(叙述文, 比較・対照文 & 因果関係文)			(鹿野)
第5回	Unit 4: パラグラフライティングからエッセーライティングへ展開			(鹿野)
第6回	Unit 5: 比較・対照のパラグラフの書き方 – そのⅠ			(鹿野)
第7回	Unit 6: 比較・対照のパラグラフの書き方 – そのⅡ			(鹿野)
第8回	Unit 7: 分類別パラグラフの書き方			(鹿野)
第9回	スライドプレゼンテーション・ポスター発表の準備の方法			(成田・鹿野)
第10回	学会で使用する英語表現方法、サンプルプレゼンテーション			(成田・鹿野)
第11回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(成田・鹿野)
第12回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(成田・鹿野)
第13回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(成田・鹿野)
第14回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(成田・鹿野)
第15回	文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッション			(成田・鹿野)
評価方法	レポートの提出物(40%)、発表(40%)、授業中の参加度(20%)			
テキスト	Folse, Keith S., Elena V., and Clabeaux, David. (2020) Great Writing: From Great Paragraphs to Great Essays 3, Cengage Learning. 佐藤雅昭(2016) 国際学会発表：流れがわかる英語プレゼンテーション How To. メディカルレビュー社 参考書として以下提示する： その他、専門誌から適宜提示する			
履修上の留意事項	提示された事前課題を仕上げて、受講すること。受講生には、毎回の講義終了後、Moodleにおいて講義資料を閲覧可能とするので、やむを得ず欠席した場合は、事前に閲覧し次回の講義に臨むこと。			

授 業 科 目 名	小児看護学講義 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者				
到 達 目 標	子どもを理解するために、成長発達、生活（環境との相互作用を含む）、社会的・歴史的側面から、主要な理論を学び小児看護における看護実践への活用が考えられる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：				
○概要：子どもの成長発達および家族や子どもを取り巻く環境との相互作用を理解するための主要な理論および子どもの生活に関する最近の知見を学び、小児看護における看護実践への活用を検討する。				
第 1 回	オリエンテーション 小児看護における子どもの理解と理論の位置づけ		()	
第 2～6 回	小児看護における理論・研究の看護実践への活用 発達理論、セルフケア理論、コーピング理論、家族の理論など		()	
第 7～15 回	子どもの理解と援助：小児期各期の成長発達と生活 乳児期、幼児期、学童・思春期の子どもの生活 親家族の発達		()	
評 価 方 法	プレゼンテーション（50%）、討議内容（50%）			
テ キ ス ト	・R.M.トーマス著、小川捷之他訳：ラーニングガイド児童発達の理論、新曜社、1988. ・アン・マリーナ・トメイ、マーサ・レイラ・アリグッド著、都留伸子監訳：看護理論家とその業績 第3版、医学書院、2004. その他、関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	・本科目は小児看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目（小児・家族の成長・発達／健康生活に関する科目）2単位に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係書籍・論文からプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行い、授業中に討議した内容から再考察する。			

授 業 科 目 名	小児看護学講義Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者				
到 達 目 標	小児看護におけるさまざまな現象を理解する上で、重要な理論や最近の知見を学ぶとともに、倫理的判断についての考えを発展させ、子どもの健康レベルや状況に応じた看護ケアについて考えることができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：朝野春美・黒田光恵・村山有利子（非常勤）				
○概要：小児看護におけるさまざまな現象を理解する上で、重要な理論や最近の知見を学ぶとともに、小児看護における倫理的判断も含め、子どもの健康レベルや状況に応じたより効果的なケアについて検討する。				
第 1 回	オリエンテーション 小児各期における健康促進および複雑な状況にある子どもを理解するうえでの理論の位置付け		()	
第 2～ 3 回	小児看護と倫理		()	
第 4～ 5 回	小児看護における健康促進のための援助（ヘルスプロモーション）		()	
第 6～15 回	複雑な状況にある子どもの理解とケア 慢性的な状況にある子どもの理解とケア 急性状況にある子どもの理解とケア 障害を持つ子どもの理解とケア 子どもの虐待の理解とケア 障害や疾患をもつ子どもの親・家族の理解とケア		(黒田) (村山) () (朝野) ()	
評 価 方 法	プレゼンテーション（50%）、討議内容（50%）			
テ キ ス ト	Craft-Rosenberg, M. Denegy, J.: Nursing interventions for infants, children, and families, Sage, 2000. Alyson M. Davies, Ruth E. Davies: Children and Young People’s Nursing Second Edition, Routledge, 2016. その他、関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	・本科目は小児看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）6 単位中の 2 単位に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係書籍・論文からプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行い、授業中に討議した内容から再考察する。			

授 業 科 目 名	小児看護学講義Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者				
到 達 目 標	ケアシステム、ケアマネジメント、社会資源の活用などを踏まえて、小児看護専門職として必要な機能（実践・コンサルテーション・コーディネーション・教育・倫理的問題への対処）の側面から、小児看護の現状を分析し、小児看護専門職の課題および役割について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：黒田光恵・村山有利子・佐々木祥子・手塚真由美（非常勤） ○概要：小児看護専門職として必要な機能を学び、さらに専門的な看護実践活動を行ううえでの関連領域との連携について、ケアシステム、ケアマネジメントにおける看護の役割および社会資源の活用の側面から理解する。また、小児看護の現状を分析し、小児看護専門職の課題および役割を明らかにする。				
第 1～ 9 回	小児看護専門職として必要な機能と役割			(佐々木・村山・手塚)
	小児看護専門職として必要な機能			
	実践・コンサルテーション・調整・教育・倫理的問題への対処			
	専門的な看護実践活動を行ううえでの関連領域との連携			
	ケアシステム、ケアマネジメントにおける看護の役割			
	社会資源の活用			
第 10～15 回	小児看護の現状を踏まえた小児看護専門職の課題と役割			(黒田)
	小児看護の現状			
	小児看護専門職としての活動の実際と課題			
評 価 方 法	プレゼンテーション（50%）、討議内容（50%）			
テ キ ス ト	・ Schober, M. Affara, F.: Advanced practice nursing, Blackwell, 2006. ・ 中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、へるす出版、東京、2017. ・ 井部俊子、大生定義監：専門看護師の思考と実践、医学書院、東京、2015. その他、関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	本科目は小児看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）6 単位中の 2 単位に相当する。 ・ 事前準備としてテキストおよびその他関係書籍・論文からプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行う。 ・ 事後学習として、授業中に討議した内容から小児看護専門職の課題および役割について再考察する。			

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者				
到 達 目 標	社会、特に保健医療・福祉・教育との関連において、社会における子どものサポートシステムの動向、健康レベルに応じた子どものサポートシステムをフィールドにおける見学演習を通して学び、看護の役割や方策について考えることができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：朝野春美・黒田光恵（非常勤） ○概要：自治医科大学とちぎ子ども医療センター地域連携室、下野市役所、児童相談所、小・中学校などのフィールドにおける見学演習を通して、子どもを取りまく社会のサポートシステムと小児看護の連携について学び、小児看護専門職として看護の役割や方策について検討する。				
第 1 回	オリエンテーション 小児看護と社会におけるサポートシステム	()		
第 2～16 回	子どもを取りまく社会のサポートシステム ①子どもを支える主な法律や制度・政策の概要の理解 ②保健医療、教育、福祉分野におけるサポートシステムの理解 (フィールド見学実習を含む)	(黒田)		
第 17～30 回	さまざまな状況におけるサポートシステムと看護の役割・機能 (フィールド見学実習を含む) ①健康な子どもの健康の保持増進のためのサポートシステム ②施設や医療機関に入所・入院している子どものサポートシステム ③子どもの在宅療養を支えるサポートシステム	(朝野・黒田)		
※フィールド見学実習内容： 保健医療、教育、福祉の各分野 1 か所以上の施設・機関について見学実習を行い、子どものサポートシステムとしての機能や役割について理解を深めるとともに、小児看護との連携について探求する。				
評 価 方 法	プレゼンテーション (30%)、討議内容 (30%)、レポート (40%)			
テ キ ス ト	指定しない。関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	・本科目は小児看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目（小児の保健／医療環境／制度に関する科目）2 単位に相当する。 ・テキストおよびその他関係書籍・論文から社会における子どものサポートシステムの動向、健康レベルに応じた子どものサポートシステムについて事前学習してから授業に臨む。 ・フィールド見学実習終了後にプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行い、授業中に討議した内容を再考察し、レポートを作成する。			

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者				
到 達 目 標	小児看護専門職として必要なフィジカルアセスメント、発達評価、観察・インタビューについて学び、フィールドにおける演習を通して専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：河野由美・熊谷秀規（非常勤） ○概要：自治医科大学とちぎ子ども医療センター・自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センターのフィールドにおける臨床講義・演習を通して、子どものヘルスアセスメントの方法を修得する。				
第 1 回	子どものヘルスアセスメント			()
第 2 ～10 回	子どもの観察とインタビュー 新生児期、乳児期、幼児期、学童・思春期の各期における子どもや家族			()
第 11～14 回	発達評価 乳幼児の発達のスクリーニング（見学演習を含む）			()
第 15～22 回	子どものフィジカルアセスメント 新生児期、乳児期、幼児期、学童・思春期の各期における子どものフィジカルアセスメント（臨床講義・演習を含む）			(河野・熊谷)
第 23～30 回	子どものヘルスアセスメント 新生児、乳児期、幼児期、学童・思春期の各期			()
評 価 方 法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）			
テ キ ス ト	小野田千枝子監修：こどものフィジカル・アセスメント、金原出版、2001. その他、関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	・本科目は小児看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目（小児看護対象の査定に関する科目）2 単位に相当する。 ・事前学習としてテキストおよび関係書籍・論文から発達年代別にフィジカルアセスメントおよびヘルスアセスメントについて学び、資料としてまとめる。 ・事後学習として授業での討議および演習での学びから発達年代別のヘルスアセスメントについて再考察する。			

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者				
到 達 目 標	高度医療の場における小児看護専門看護師の活動の実際、地域における小児看護の実際などの学習を通し、事例を用いて小児看護実践における課題および高度実践看護師としての援助について検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：黒田光恵・村山有利子・佐々木祥子・手塚真由美・川崎綾香（非常勤） ○概要：自治医科大学とちぎ子ども医療センター・日光市民病院などのフィールドにおける演習およびプレゼンテーションや討議を通して、高度な小児看護実践における課題および高度実践看護師（小児看護専門看護師）としての高度実践活動について検討する。				
第 1 回	オリエンテーション 小児看護専門看護師の機能	()		
第 2～18 回	小児看護専門看護師の活動の実際および事例の検討 高度な看護実践の実際 コンサルテーション機能の実際 調整機能の実際 教育機能の実際 倫理調整機能の実際 研究機能の実際	(黒田・村山・手塚・川崎)		
第 19～20 回	小児専門看護師の活動からみた高度看護実践活動の課題	(黒田)		
第 21～28 回	地域（へき地）において医療が展開される場における小児看護の実際	(佐々木)		
第 29～30 回	地域（へき地）において医療が展開される場における高度な小児看護を実践する可能性について検討	(佐々木)		
評 価 方 法	プレゼンテーション（50％） およびレポート（50％）			
テ キ ス ト	・ Schober, M. Affara, F.: Advanced practice nursing, Blackwell, 2006. ・ 中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、へるす出版、東京、2017. その他、関係書籍・論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	本科目は小児看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）6 単位中の 2 単位に相当する。 ・ 事前学習としてテキストおよび関係書籍・論文から小児専門看護師の機能について学び、資料としてまとめる。 ・ 事後学習として授業での討議および演習での学びから小児専門看護師の活動について明らかにし、高度実践活動について考察する。			

授 業 科 目 名	小児看護学演習Ⅳ	専門科目	2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者				
到 達 目 標	小児看護専門職として必要な子ども特有の疾患やその治療について、フィールドにおける臨床講義を通して病態生理や検査とその解釈および治療法（栄養療法、薬物療法を含む）、診断と治療のプロセス、症状マネジメントの観点から学び、専門的なケアを提供するために活用できる能力を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：柳橋達彦・河野由美・熊谷秀規・村松一洋・関満・黒田光恵・村山有利子（非常勤） ○概要：自治医科大学とちぎ子ども医療センター・自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センターにおいて、小児期に特有な疾患の診断と治療のプロセス、治療法および症状マネジメントについて臨床講義を受け、事例を用いて小児看護実践における専門的ケアについて検討する。				
第 1～ 2 回	オリエンテーション・診断と治療のプロセス			(熊谷)
第 3～ 4 回	遺伝・先天性疾患・新生児疾患			(河野)
第 5～ 6 回	呼吸器疾患（呼吸の異常・喘鳴、他）			(関)
第 7～ 8 回	循環器疾患（脈拍・血圧の異常、他）			(関)
第 9～10 回	消化器疾患（悪心・腹痛、他）			(熊谷)
第 11～12 回	腎・泌尿器・生殖器疾患（血尿・蛋白尿、他）			(熊谷)
第 13～14 回	代謝・内分泌疾患（低身長・血糖不良、他）			(村松)
第 15～16 回	免疫・アレルギー疾患			(熊谷)
第 17～18 回	血液・造血器疾患（貧血・出血傾向、他）			(村松)
第 19～20 回	腫瘍性疾患			(村松)
第 21～22 回	神経・運動器疾患（けいれん・意識障害、他）			(村松)
第 23～24 回	感染症（発熱・皮疹、他）			(熊谷)
第 25～26 回	精神障害・精神疾患			(柳橋)
第 27～28 回	小児の栄養療法（CNS 黒田, 横山）			(黒田)
第 29～30 回	小児の薬理			(村山)
評 価 方 法	プレゼンテーション（40%）およびレポート（60%）			
テ キ ス ト	・小児科診療 症候からみた小児の診断学、診断と治療社、東京、2007. ・大橋京一、藤村昭夫、渡邊裕司編：疾患からみた臨床薬理学 第3 版、株式会社じほう、東京、2012.			
履修上の留意事項	・本科目は小児看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目（小児の病態・治療に関する科目）2 単位に相当する。 ・事前学習としてテキストを一読してから授業を受ける。事後学習として、演習で学んだ内容から小児看護実践における専門的ケアについて明確化する。			

授 業 科 目 名	小児看護専門看護実習 I	専 門 科 目	2 年次前期 8 単位
科 目 責 任 者			
到 達 目 標	小児看護を実践し課題を探究することにより、高度医療および地域において医療が展開される場において、小児看護専門職としての看護実践能力を発展させる。また、複雑な状況にある子どものケアを通して、小児専門看護師として子どものケアを実践できる能力（実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理的問題への対処）を修得する。 さらに、小児看護専門看護師として自立した活動を行うために必要な看護実践能力を発展させる。		
授 業 概 要			
○担当教員名：黒田光恵・村山有利子・佐々木祥子・川崎綾香・川上直子・川中子知里（非常勤） ○概要：高度医療および地域において医療が展開される場において、小児専門看護師として子どものケアを実践できる能力（実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理的問題への対処）を修得する。			
学習方法： 実習			
小児専門看護師あるいはそれに準じた活動を行っている看護師が活動する施設において、実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理的問題への対処を必要とする事例を具体的に展開する。原則的に1週間に1回以上、指導教員や小児看護専門看護師とカンファレンスを行い、スーパービジョンを得ながら、実践での学びを発展させる。 事例数は実践機能5事例以上、コンサルテーション、教育機能、調整機能、倫理調整の各機能に関して2事例以上経験することを前提とし、基本的な実践能力の修得度によって事例数を調整する。期間は最低8週間を目安とするが、可能な範囲で専門的看護実践のための技術や能力を修得するための期間を確保する。 さらに、各事例について展開の過程および結果についてのレポートを作成する。			
実習施設：			
高度医療施設：自治医科大学とちぎ子ども医療センター、自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センター へき地医療の場：日光市民病院など、そのほか必要に応じて、周辺地域の保健所・保健センター、市町村など			
評 価 方 法	実習内容（60%）、レポート（40%）		
テ キ ス ト	指定しない。関係書籍・論文を広く活用する。		
履修上の留意事項	・本科目は小児看護専門看護師教育課程の実習科目（高度実践者としての役割に関する実習科目）8単位に相当する。 ・事前学習として高度医療施設においては事前実習、へき地医療の場においては、地区踏査を行い地域における小児看護の問題を明確化しておく。 ・事後学習としては実習で学んだ内容を小児看護専門看護師の申請書類の書式でまとめ、振り返りを行う。		

授 業 科 目 名	小児看護専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者			
到 達 目 標	高度医療の場において、発達段階各期の子ども特有の疾病の診断および治療のプロセスについて実践を通して学び、小児看護専門看護師として自立した活動を行うためにそれらを活用する能力を修得する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：河野由美・熊谷秀規・村松一洋・関満（非常勤） ○概要：小児看護学演習Ⅳで学んだ子ども特有の疾病の診断および治療のプロセスについての知識を活用し、自治医科大学とちぎ子ども医療センター・自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センターのフィールド実習において、疾病の診断および治療のプロセスについて医師とのディスカッションを通して学び、看護実践に活用できる能力を修得する。			
学習方法： 実習 小児看護学演習Ⅳで学んだ各疾患（遺伝・先天性疾患・新生児疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、代謝・内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、血液・造血器疾患、腫瘍性疾患、神経・運動器疾患、感染症、精神障害・精神疾患）の診断と治療のプロセス（小児の栄養療法、小児の薬理を含む）の知識を活用し、自治医科大学とちぎ子ども医療センター外来および病棟、自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センターにおいて、小児科医および新生児科医の診察場面または小児科医および新生児科医の立ち会いの場で学生自らが行う診察を通して子ども特有の疾病の診断および治療のプロセスを検討する。検討した内容を医師とのディスカッションを通して確認し、疾患の診断・治療プロセスを学ぶ。さらに、その知識・技術の小児看護高度実践への活用について検討する。 小児各期特有の疾患を患う子どもとする。事例数は全体で 10 例以上。 期間は最低 2 週間を目安とするが、可能な範囲で診断・治療プロセスを修得するための期間を確保する。 各事例について展開の過程および結果についてのレポートを作成する。			
実習施設： 自治医科大学とちぎ子ども医療センター、自治医科大学附属病院総合周産期母子医療センターなど			
評 価 方 法	実習内容（60%）、レポート（40%）		
テ キ ス ト	指定しない。関係書籍・論文を広く活用する。		
履修上の留意事項	・本科目は小児看護専門看護師教育課程の実習科目（小児の診断・治療に関わる実習科目）2 単位に相当する。 ・小児看護学演習Ⅳで学んだことを活用し実習を行う。実習終了後は診断・治療のプロセスの知識・技術の小児看護高度実践への活用について明確化する。		

授 業 科 目 名	小児看護学課題研究	専門科目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者				
授 業 目 標	講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実践上の課題について、取得を目指す小児看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名： ○研究指導補助教員名:なし ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定する。 研究指導は、小児看護専門看護実習の指導者による研究課題に関する直接的助言とともに、個別指導や領域内で開催される少人数指導によって行う。 小児看護専門看護師教育課程の修了を目指す学生が、小児看護専門看護実習で担当した患者、家族または集団、看護職を含むケア提供者や保健医療福祉に携わる人々を対象として、直接的ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究のうち、いずれかまたはいくつかの役割に焦点を当てて、看護実践の質の維持・向上に寄与する研究課題を設定する。設定したテーマに関する研究活動を展開し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。				
評 価 方 法	修士論文の研究課題に関する研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず「小児看護専門看護実習」の全科目を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	小児看護学特別演習	専門科目	2 年次前期 4 単位
科 目 責 任 者			
到 達 目 標	小児看護学講義Ⅰ、Ⅱおよび小児看護学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの学修を発展させ、小児看護における現状を分析して課題を見出す。その課題の改善・改革の方法について明らかにする。		
授 業 概 要			
○担当教員名：戈木クレイグヒル滋子（非常勤） ○概要：これまでの講義・演習の学習を通して見出された課題・探求の方法等を参考に、子どもと家族を対象とした小児看護活動の場に参加し、小児看護学の課題を見出すとともに、文献検討、演習等を行い、その課題の改善・改革の方法を検討し、自分自身の研究課題を明らかにする。			
学習方法：演習			
実習・演習先は、院生それぞれが持つ課題に応じて、担当教員と相談しながら決定する。			
</			

授 業 科 目 名	母性看護学講義Ⅰ	専 門 科 目	1 年次前期	2 単 位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	(1)周産期にある母子と家族の状況を理解するための諸理論（遺伝学的知識、周産期医学的知識、愛着や親役割理論、発達危機理論、人間関係論）を理解できる。 (2)周産期にある母子とその家族の状況と健康問題について、関連する理論の理解に基づき思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野 亜津子、成田伸、角川志穂 中込さと子（非常勤） ○概要：周産期にある母子と家族の状況を理解するための諸理論（遺伝学的知識、周産期医学的知識、愛着や親役割理論、発達危機論、人間関係論等）の理解を通して、周産期にある母子とその家族の状況と健康問題について思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	母親役割取得過程の諸理論の理解（愛着理論を含む）			（成田）
第 3 回～第 4 回	父親役割取得過程の諸理論の理解			（川野）
第 5 回～第 6 回	家族看護学の諸理論の理解			（角川）
第 7 回～第 8 回	人間関係論の理解—家族内の人間関係に焦点を当てて			（角川）
第 9 回～第 10 回	発達危機理論の理解			（川野）
第 11 回～第 13 回	周産期医療の最新情報			（川野）
第 14 回～第 15 回	周産期における遺伝学と遺伝看護学の最新情報			（川野）
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テ キ ス ト	参考書として以下を提示 ・ルヴァ・ルービン；新道幸恵・後藤桂子訳：母性論. 医学書院, 1997. ・Romona T. Mecer：Becoming A Mother. Springer Publishing Company, 1995. ・鈴木和子, 渡辺裕子：家族看護学—理論と実践, 第 5 版, 日本看護協会出版会, 2019. ・柏木恵子：家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点. 東京大学出版会, 2003. ・中込さと子監修：遺伝看護学. 羊土社, 2019. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目「対象理解に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備と事後の課題については、毎回提示するため、それらについて学習してから授業に臨むこと。			

授 業 科 目 名	母性看護学講義Ⅱ	専 門 科 目	1 年次後期	2 単 位
科 目 責 任 者	成田 伸			
到 達 目 標	(1)女性の健康看護学の展開に必要な基本的概念を理解できる。 (2)各ライフステージにある女性の健康問題の特性を理解できる。 (3)思春期から更年期までの対象者の健康問題を診断するために必要な、生殖内分泌学、性感染症、ホルモン治療、受胎調節等の最新情報について理解できる。 (4)最新の研究成果の女性の保健・医療への適用について理解できる。 (5)女性医療ケアシステムとその組織化に関する理論、生涯を通じた女性の健康を守る保健施策、男女共同参画社会政策など、女性の健康問題への支援としての諸制度や社会システムを学ぶことができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：成田 伸、川野 亜津子、角川 志穂 坂上明子、鈴木幸子（非常勤） ○概要：女性の健康看護学、生殖内分泌学、性感染症、女性医療とホルモン剤使用等の最新情報を理解したうえで、各ライフステージにある女性の健康問題について理解する。また、最新の研究成果の女性の保健・医療への適用や、女性医療ケアシステムとその組織化に関する理論、生涯を通じた女性の健康を守る保健施策、男女共同参画社会政策など、女性の健康問題への支援としての諸制度や社会システムを学ぶことを通して、女性のライフサイクル全般にわたる援助について思考する。				
授業内容				
第 1 回	女性の健康看護学における基礎概念（リプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、女性総合医療等）の理解			（成田）
第 2 回	女性医療の基礎となる生殖内分泌学の最新知識			（成田）
第 3 回～第 4 回	女性医療に用いられるホルモン剤使用等の基礎知識			（成田）
第 5 回～第 6 回	不妊治療の最新情報			（成田）
第 7 回	性感染症の疫学・病態生理と感染の成立の理解			（成田）
第 8 回	各ライフステージにある女性の健康問題の特性の理解			（成田）
第 9 回	性感染症の検査・治療・予防への支援における女性健康看護学の適用			（成田）
第 10 回～第 11 回	受胎調節（避妊（不妊手術含む）・妊娠・中絶）への支援における女性健康看護学の適用			（成田）
第 12 回～第 13 回	最新の研究成果の女性の保健・医療への適用（診療ガイドラインの基礎とその活用を含む）			（成田・川野・角川）
第 14 回～第 15 回	各ライフステージにある女性の健康問題に対する保健施策、男女参画社会政策、女性医療ケアシステムの組織化等の理解			（成田）
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テ キ ス ト	参考資料 産婦人科診療ガイドライン産科編：日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修，最新号．／性感染症診断・治療ガイドライン：日本性感染症学会，最新号．／わかりやすい女性内分泌 改訂第 2 版：順天堂大学生殖内分泌グループ著，診断と治療社，2013． 他、適宜提示する			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目「対象理解に関する科目」（1 単位）及び「女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目」（1 単位）に相当する。事前準備と事後の課題については、毎回提示するため、それらについて学習してから授業に臨むこと。			

授 業 科 目 名	母性看護学講義Ⅲ	専 門 科 目	1 年次後期	2 単 位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	(1)ハイリスク状態にある母子と家族に関する諸理論、周産期の心理的問題・社会的問題を理解し、必要な援助について思考できる。 (2)周産期ケアに関連する最新のエビデンスを獲得する方法を学び、その適用について思考できる。 (3) 母子保健行政、周産期における医療の質と安全、周産期ケアシステムとその組織化に関する理論などについて理解し、母子と家族を支える社会的なシステムについて思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川志穂、成田 伸、川野亜津子 須田史郎（非常勤） ○概要：ハイリスク状態にある母子と家族に関する諸理論、周産期特有の心理社会的問題を理解し、必要な援助について思考する。周産期医療ケアに関連する最新のエビデンスを獲得する方法を学び、その適応について思考する。また、母子保健行政、周産期における医療の質と安全、周産期ケアシステムとその組織化に関する理論などについて理解し、母子と家族を支える社会的なシステムについて思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	ハイリスク状態にある母子と家族に関する諸理論			(角川)
第 3 回～第 4 回	周産期の心理的問題・精神疾患とその治療			(須田)
第 5 回～第 6 回	ペリネイタルロスとその支援			(角川)
第 7 回～第 10 回	最新の研究成果の周産期ケアへの適用 (周産期における診療ガイドラインの活用を含む)			(角川・川野・成田)
第 11 回～第 12 回	母子保健行政の仕組みと課題			(川野)
第 13 回～第 15 回	周産期における医療の質と安全ー助産マネジメントの視点から			(成田)
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テ キ ス ト	参考書として以下を提示。 ・Kathleen B. Buckley, Nancy W. Kulb: High Risk Maternity Nursing Manual, 2nd edi. Williams & Wilkins, 1993. ・Elizabeth S. Gilbert & Judith S. Harmon ; 加納尚美・吉野八重・野田直子訳：ハイリスク妊娠・出産看護マニュアル1，2，3. じほう, 2005. ・日本産婦人科医会編：妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル. 2021. ・岡野禎治他編：クロストークから読み解く周産期メンタルヘルス. 南山堂, 2016. ・山中道子編：赤ちゃんを亡くした女性への看護. メディカ出版, 2009. ・産婦人科診療ガイドライン，産科編 2020, 2020. ・成田伸：周産期における医療の質と安全. 第2版, 日本看護協会出版会, 2022. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野共通科目「周産期にある母子の援助に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備と事後の課題については、毎回提示するため、それらについて学習してから授業に臨むこと。			

授業科目名	母性看護学演習Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科目責任者	成田 伸			
到達目標	(1) 超音波診断、胎児心拍数モニタリング等の医学的診断技術の基礎的能力を養うことができる。 (2) 周産期の母子に対する基礎的なフィジカルアセスメント能力を養うことができる。 (3) プライマリーケア、院内助産システム、地域での母子と家族の支援方法、病院から地域に母子と家族をつなぐシステム等を理解できる。 (4) 上記を総合して、高度看護実践の基盤となる母子と家族の包括的なアセスメントに必要な能力を養うことができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：成田伸、川野 亜津子、角川志穂 立木歌織・松本佳代子・小嶋由美・藤川智子・小田郁代 ○概要：超音波診断、胎児心拍数モニタリング等の医学的診断技術を含む、基礎的なフィジカルアセスメント能力を養う。また、プライマリーケア、院内助産システム、地域での母子と家族の支援方法、病院から地域に母子と家族をつなぐシステム等を理解して、高度看護実践の基盤となる母子と家族の包括的なアセスメントに必要な能力を養う。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	周産期における母子と家族の包括的アセスメント	(成田・角川)		
第 3 回～第 4 回	周産期における超音波診断の原理の理解と高度看護実践におけるその適用	(成田)		
第 5 回～第 6 回	胎児心拍数モニタリングの最新基準の理解と高度看護実践におけるその適用	(立木)		
第 7 回～第 11 回	女性医療（周産期を中心に）における臨床薬理学の適用と実際	(成田)		
第 12 回～第 13 回	周産期におけるプライマリーケアの現状と課題 （院内助産システムの構築を含む）	(小田・ 成田・角川)		
第 14 回～第 18 回	助産外来における包括的アセスメント （インタビュー、フィジカルアセスメントを含む）の実際	(小嶋)		
第 19 回～第 20 回	院内助産システムを活用した妊娠期から出産期にかけての プライマリーケアの実際	(成田・小嶋)		
第 21 回～第 24 回	地域における訪問を活用した母子と家族のアセスメントと支援 （新生児訪問、赤ちゃん訪問を例として）	(成田・藤川)		
第 25 回～第 26 回	地域における小集団を活用した育児支援の方法	(角川)		
第 27 回～第 30 回	病院から地域に母子と家族をつなぐシステムの実際	(川野)		
評価方法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テキスト	参考書として以下を提示。 ・Tekoa King et. al：Varney's Midwifery, Fifth edi. Jones & Bartlett Publishers, 2013 . ・進純郎，高木愛子：助産外来の健診技術. 医学書院, 2010. ・進純郎，堀内成子：正常分娩の助産術—トラブルへの対応と会陰裂傷縫合. 医学書院, 2010. ・宮原富士子，松本佳代子，柴田ゆうか：女性の健康支援；薬局, 2009 年 11 月臨時増刊号, 60 巻, 南山堂, 2009. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目「周産期看護に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備と事後の課題については、毎回提示するため、それらについて学習してから授業に臨むこと。			

授 業 科 目 名	母性看護学演習Ⅱ	専 門 科 目	1 年次前期	2 単 位
科 目 責 任 者	成田 伸			
到 達 目 標	(1) ハイリスク妊産婦・新生児のアセスメントとその支援の基礎的方法を身につけるができる。 (2) 社会的ハイリスクとしてのDV／虐待のハイリスク状態にある母子のスクリーニングとその組織的な支援について思考できる。 (3) 周産期医療において教育的機能を発揮できる能力を養うことができる。 (4) 周産期の心理的問題・精神疾患への看護介入について思考できる。 (5) 遺伝看護学の展開と遺伝カウンセリングの実際について理解できる。 (6) ハイリスク母子と家族における倫理的課題について思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：成田伸、川野 亜津子、永井優子、角川志穂 佐藤ひさ代・三隅順子・立木歌織・中込さと子・小田郁代（非常勤） ○概要：ハイリスク妊産婦・新生児のアセスメントとその支援の基礎的方法を身につける。また、心理・社会的ハイリスク状態にある母子のスクリーニング、看護介入、組織的な支援について思考する。周産期医療において教育的機能を発揮できる能力を養う。遺伝看護学の展開と遺伝カウンセリングの実際について理解する。ハイリスク母子と家族における倫理的課題について思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 2 回	ハイリスク妊産婦のフィジカルアセスメントの実際			(小田・成田)
第 3 回～第 6 回	ハイリスク新生児のアセスメントとその支援 (新生児蘇生法を中心として)			(佐藤・成田)
第 7 回～第 11 回	DV／虐待のハイリスク状態にある母子と家族のスクリーニングとその支援			(三隅)
第 12 回～第 14 回	DV／虐待のハイリスク状態にある母子と家族への支援とその支援 における地域連携の実際			(成田)
第 15 回～第 18 回	周産期医療における教育的機能の発揮			(立木・成田)
第 19 回～第 22 回	周産期の心理的問題・精神疾患への看護介入			(川野)
第 23 回～第 26 回	遺伝看護学の展開と遺伝カウンセリングの実際			(川野)
第 27 回～第 30 回	ハイリスク母子と家族における倫理的課題の検討			(成田・川野・角川)
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テ キ ス ト	参考書として以下を提示。 ・Kathleen B. Buckley, Nancy W. Kulb: High Risk Maternity Nursing Manual, 2nd edi. Williams & Wilkins, 1993. ・Elizabeth S. Gilbert & Judith S. Harmon ; 加納尚美・吉野八重・野田直子訳：ハイリスク妊娠・出産看護マニュアル1，2，3. じほう, 2003. ・Jones, S.R. 著；久米美代子監訳：母と子の生命倫理. EDIXi 出版社, 2006. ・日本専門看護師協議会監修：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会, 2009. ・Tusaie & Fitzpatrick : Advanced Practice Psychiatric Nursing. Springer 出版 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目「周産期看護に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備と事後の課題については、毎回提示するため、それらについて学習してから授業に臨むこと。			

授 業 科 目 名	母性看護学演習Ⅲ	専 門 科 目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	(1) 周産期において正常経過から逸脱した対象者の産科学的診断・治療の実際について学び、症状アセスメントの技能を高めると共に、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考できる。 (2)周産期における正常経過から逸脱した対象者のケアについて、それぞれのエビデンスの臨床への適用について思考し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考できる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川志穂、成田伸、川野亜津子、倉科智行 桑田知之・高橋宏典・鈴木寛正（非常勤） ○概要：周産期において正常経過から逸脱した対象者の産科学的診断・治療の実際について学び、症状アセスメントの技能を高めると共に、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考する。周産期における正常経過から逸脱した対象者のケアについて、それぞれのエビデンスの臨床への適用について思考し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考する。				
授業内容				
第 1 回～第 5 回	周産期における超音波診断の実際（妊娠期に胎児異常が指摘されている事例を中心に、その実際を理解する）			（桑田）
第 6 回	超音波検査によってリスクを指摘された妊産婦へのケア			（角川）
第 7 回～第 9 回	ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実際(1)（切迫流産）			（高橋）
第 10 回	ハイリスク妊産婦の症状のアセスメントとケア(1)（切迫流産）			（角川）
第 11 回～第 13 回	ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実際(2)（妊娠高血圧症候群、HELLP 症候群等）			（鈴木）
第 14 回	ハイリスク妊産婦の症状のアセスメントとケア(2)（妊娠高血圧症候群、HELLP 症候群等）			（角川）
第 15 回～第 17 回	ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実際(3)（妊娠糖尿病）			（倉科）
第 18 回～第 20 回	ハイリスク妊産婦の症状のアセスメントとケア(3)（妊娠糖尿病）			（成田）
第 21 回～第 22 回	周産期における性感染症の診断・治療・看護・予防への支援の実際			（成田）
第 23 回～第 24 回	周産期における受胎調節への支援の実際			（成田）
第 25 回～第 30 回	周産期における診療ガイドラインの活用（NICE、産婦人科診療ガイドライン・産科編、助産所業務ガイドライン等を読み解く）			（成田・川野・角川）
評 価 方 法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート30%			
テ キ ス ト	参考資料 Tina Moore：High Risk Maternity Care. Routledge, 2014. Tekoa King 他著：Varney’s Midwifery，5 版, Jones & Bartlett Pub，2013. 産婦人科診療ガイドライン産科編：日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修，最新号．／性感染症診断・治療ガイドライン：日本性感染症学会，最新号．／助産業務ガイドライン：社団法人日本助産師会，最新号．／周産期管理：池ノ上克著，メディカ出版，2009．他、適宜提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目「周産期看護に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備と事後の課題については、毎回提示するため、それらについて学習してから授業に臨むこと。			

授業科目名	母性看護学演習Ⅳ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科目責任者	川野 亜津子			
到達目標	(1)正常経過から逸脱した対象者の症状アセスメントや根拠に基づいた看護介入、介入における職種間協働について理解できる。 (2) 周産期医療において調整機能を発揮できる能力を養うことができる。 (3)業務管理、社会参画の方法、周産期の母子援助とそのシステムを充実・発展させるうえでのリーダーシップについて、演習を通して修得することができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、成田伸、角川志穂 臼井いづみ、坂上明子、長坂桂子、福井トシ子、松下博宣（非常勤） ○概要：正常経過から逸脱した対象者の症状アセスメントや根拠に基づいた看護介入、介入における職種間協働について理解し、周産期医療において調整機能を発揮できる能力を養う。業務管理、社会参画の方法、周産期の母子援助とそのシステムを充実・発展させるうえでのリーダーシップについて、演習を通して修得する。				
授業内容				
第 1 回～第 4 回	正常経過から逸脱した母子と家族のアセスメントと根拠に基づいた看護介入	(川野・成田・角川)		
第 5 回～第 8 回	妊産褥期の糖代謝異常状態への看護介入と他職種間協働の実際	(川野・成田・角川)		
第 9 回～第 13 回	周産期救急における妊産婦のアセスメントと支援における職種間協働の実際	(川野)		
第 14 回～第 15 回	高度先進医療を受ける女性と家族の理解とその支援の理解 ー不妊治療を受けるカップルの支援を例としてー	(川野)		
第 16 回～第 17 回	高度先進医療を受ける女性と家族の理解とその支援の実際 ー不妊治療を受けるカップルの支援を例としてー	(川野)		
第 18 回～第 22 回	ハイリスク母子と家族における調整機能の実際 ー母性看護専門看護師としての調整機能の実際を、臨床現場における講義と演習を通して体験的に学ぶー	(川野)		
第 23 回～第 26 回	周産期医療システムの充実・発展のための組織的活動 ー周産期医療システム管理のトップマネジメントとして行っている組織的活動について、講師の実践に関する講義と事前課題に対する演習の展開を通して学ぶー	(川野)		
第 27 回～第 30 回	地域周産期医療に対する社会参画におけるリーダーシップの発揮 ー地域周産期医療に対する社会参画におけるリーダーシップの発揮について、講師の実践に関する講義と事前課題に対する演習の展開を通して学ぶー	(川野)		
評価方法	参加・討議内容（プレゼン含む）70%，課題レポート 30%			
テキスト	参考書として以下を提示。 福井トシ子編：Textbook 妊娠と糖尿病のケア学：基礎知識・ケアの実際・チーム医療. メディカ出版, 2012. ／日本版救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく新生児蘇生法テキスト. メディカルビュー, 2010. ／Cocington S.N. & Burns L.H.：Infertility Counseling. Second Edi., Cambridge University Press, 2006. ／佐藤直子：専門看護制度ー理論と実践. 医学書院, 1999. ／天賀谷隆他編：コンサルテーション・リーダーシップ. 精神看護出版, 2007. ／天賀谷隆他編：対人関係・グループアプローチ. 精神看護出版, 2007. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の専攻分野専門科目「周産期看護に関する科目」（2 単位）に相当する。事前準備と事後の課題については、毎回提示するため、それらについて学習してから授業に臨むこと。			

授 業 科 目 名	母性看護専門看護実習Ⅰ	専門科目	2 年次前期	6 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子			
到 達 目 標	高度医療施設、周辺地域、へき地等で生活する、複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対する支援を実践し、専門看護師の実践において必要な、 (1)高度看護実践の能力、 (2)コンサルテーションの能力、 (3)コーディネーションの能力、 (4)倫理調整の能力、 (5)教育および研究実践に関わる能力、 を養うことができる。 また、(1)～(5)の実習の展開の過程において、リーダーシップを発揮するための基礎的能力を養うことができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：川野亜津子、成田伸、角川志穂 小嶋由美・立木歌織・佐藤ひさ代・桑田知之(非常勤) ○概要：高度医療施設、周辺地域、へき地等で生活する、複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対する支援における、高度看護実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育および研究実践に関わる実習を行い、専門看護師として必要な能力を養う。また、実習の展開において、リーダーシップ発揮の能力を養う。 ○実習場所：自治医科大学附属病院とその周辺地域 ○実習期間：2 年次前学期 6 週間以上（開始と終了については、実習施設および実習状況により調整） ○実習方法： （1）高度看護実践：個人、家族及び集団に対する卓越した看護実践 【具体的な内容】バースプランを持つ自然分娩経過のケース、身体的ハイリスクケース、心理社会的ハイリスクケース等を受け持ち、身体・心理・社会的状態を包括的にアセスメントし、ケア計画を立案し、必要な看護を実践し、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （2）相談（コンサルテーション）：看護者を含むケア提供者に対するコンサルテーション 【具体的な内容】ケースに関する看護者を含むケア提供者からの相談に対するコンサルテーション活動を実践し、コンサルテーション活動の経緯を含むケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （3）調整（コーディネーション）：保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーション 【具体的な内容】上記実習内容に相当するケースについて、調整活動（必要時ケースカンファレンスを開催）を実践し、調整活動の経緯を含めたケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （4）倫理調整：倫理的な問題や葛藤の解決 【具体的な内容】：倫理的課題を持つ事例に対して倫理調整活動を実践し、レポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （5）－①教育：看護者に対する教育的機能 【具体的な内容】病棟・スタッフの状況をアセスメントし、上記①に相当する教育内容を計画し、教育活動を実践し、レポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （5）－②研究：実践の場における研究活動 【具体的な内容】病棟においてスタッフが行なっている研究活動への指導、あるいは病棟・地域で見出した研究課題についてエビデンスに基づき分析し、病棟・地域に還元する研究活動を実践し、その経過からレポートを作成する。レポートは、1 ケース以上作成する。 （6）リーダーシップの発揮 【具体的な内容】（1）～（5）の実習の展開において、臨床スタッフとの協働を実践し、その過程において、リーダーシップを発揮するための基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、1 ケース以上作成する。				

（7）母性看護専門看護師・臨床指導者・指導教員によるスーパーバイズ それぞれのケースに対して実践する看護介入に関しては、それぞれの病棟管理者（師長）を指導者とする。また、地域への連携については、地域医療連携部黒田氏（小児看護専門看護師）および地域助産師の藤川氏の直接的な指導・助言を受け、また本学研究科修了の母性看護専門看護師2名から、定期的に専門看護実習のケースについてのスーパービジョンを受ける。教員は、日々の看護実践の指導をするとともに、必要時ケースカンファレンスの開催を支援するなど、定期的に調整・指導にあたる。	
評価方法	実習状況、実践結果の自己評価、課題レポート等を総合的に評価するが、実習の最終的な評価は、母性看護専門看護実習Ⅰ評価票に基づいて行う。
テキスト	適宜提示する。
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の実習科目（6単位）に相当する。

授 業 科 目 名	母性看護専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	角川 志穂			
到 達 目 標	以下について、医師と協働した実践のための、基礎的能力を養うことができる。 (1) 複雑な健康問題・生活状況にある母子について、医師と協働した情報収集を行うことができる。 (2)収集した情報から、母子と家族をアセスメントし、必要な看護介入を査定できる。 (3)査定した結果から、医師との協働による介入を実施できる。 (4)上記実習の展開において、リーダーシップ発揮の能力を養うことができる。			
授 業 概 要				
○担当教員名：角川志穂、成田伸、川野亜津子 佐藤ひさ代・高橋宏典・鈴木寛正（非常勤） ○概要：高度医療施設内あるいはへき地医療施設内に入院している複雑な健康問題・生活状況にある母子に対して、問診、フィジカルアセスメント、超音波検査、胎児心拍数モニタリング等を用いて、医師と協働した情報収集を行い、その結果から、母子と家族を包括的にアセスメントし、必要な看護介入を査定し、医師との協働による介入を実施し、必要なケアを展開できる能力を養う。				
○実習場所：自治医科大学附属病院とその周辺地域				
○実習期間：2 年次後学期 4 週間以上（開始と終了については、実習施設および実習状況により調整）				
○実習方法： （1）医師と協働した情報収集の実践 【具体的な内容】複雑な健康問題・生活状況にある母子、特に医学的課題を強く有する母子について、医学的な査定を行い、その結果から医師にアドバイスを受けることを繰り返すことで、医師と協働した情報収集の能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （2）収集した情報のアセスメントと看護介入 【具体的な内容】（1）で収集した情報から、母子をアセスメントし、必要な看護介入を査定する。 特に医学的情報のアセスメントと医学的介入の査定については、適時、医師の指導・助言を受けることを繰り返すことで、医師と協働した実践へ基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （3）医師との協働による介入の実施 【具体的な内容】（2）で査定した結果に応じて、医師との協働による介入を実施する。特に医学的介入の実施については、適時、医師の指導・助言を受けることを繰り返すことで、医師と協働した実践へ基礎的能力を養う。その結果として、ケースレポートを作成する。ケースレポートは、複数ケース作成する。 （4）母性看護専門看護師・臨床指導者・指導教員によるスーパーバイズ 医師と協働した情報収集、アセスメントの結果から、それぞれのケースに対して実践する看護介入に関しては、実習Ⅰと同様に、それぞれの病棟管理者（師長）を指導者とする。また、地域への連携については、地域医療連携部黒田氏（小児看護専門看護師）および地域助産師の藤川氏の直接的な指導・助言を受け、また本学研究科修了の母性看護専門看護師 2 名から、定期的に専門看護実習のケースについてのスーパービジョンを受けることも同様である。教員は、日々の看護実践の指導をするとともに、必要時ケースカンファレンスの開催を支援するなど、定期的に調整・指導にあたる。				
評 価 方 法	実習状況、実践結果の自己評価、課題レポート等を総合的に評価するが、実習の最終的な評価は、母性看護専門看護実習Ⅱ評価票に基づいて行う。			
テ キ ス ト	適宜提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38 単位）の実習科目（4 単位）に相当する。			

授 業 科 目 名	母性看護学課題研究	専 門 科 目	2 年次後期 4 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子		
到 達 目 標	母性看護学の学修並びに看護実践を通じて見出された研究課題に沿って研究を行い、修士論文を作成することができる。		
授 業 概 要			
○研究指導教員：川野 亜津子、成田 伸 ○研究指導補助教員：角川志穂 ○概要：母性看護学講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、母性看護専門看護実習において、明らかになった実践的課題の中から、看護実践の改善・改革につながるテーマを選び、研究し、研究論文を作成する。 授業形式：演習 ・研究計画を立案し、研究計画書の作成を行う。 ・計画に基づき、かつ十分に倫理的な配慮をした上でデータ収集を行う。 ・収集した情報を計画的・系統的・論理的に記述・整理し、分析して研究論文を作成する。 ・研究論文は、発表会において発表する。 以上を担当の教員の指導を受けながら行う。			
評 価 方 法	研究論文、発表会における発表内容		
テ キ ス ト	指定しない		
履修上の留意事項			

授 業 科 目 名	母性看護学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期 4 単位
科 目 責 任 者	川野 亜津子		
到 達 目 標	母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する臨床現場の現状を分析して見出された実践的課題について、エビデンスとの照らし合わせを行い、その課題の改善・改革の方法について明らかにすることができる。		
授 業 概 要			
担当教員名：川野亜津子、成田 伸、角川志穂			
授業形式：演習・レポート			
これまでの講義・演習から見出された課題・探求の方法等を参考に、母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する臨床現場での実習、多様な場や状況での演習的取り組み、文献検討等を多様に組み合わせて、母性看護学、女性の健康看護学、助産学に関連する実践的課題の改善・改革の方法について検討する。			
実習・演習先は、院生それぞれが持つ課題に応じて選択する。			

授 業 科 目 名	クリティカルケア看護学講義Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	()			
到 達 目 標	危機的な状況にある患者と家族を総合的に捉えるために、衝撃的な体験や持続するストレスに際しての人間の反応や立ち直りの過程を理解する。さらに、患者と家族に対して高度看護実践を行うために必要な理論・概念、支援方法ならびに看護の課題について修得する。			
授 業 概 要				
○科目教員名：()、山勢博彰(非常勤)				
○概要：危機的な状況にある急性・重症患者と家族を総合的に捉え、援助的にかかわりを深めるための危機理論ならびに諸理論について学修する。さらに、患者と家族の状況を把握し、高度な看護実践を行うために必要な諸理論、支援方法ならびに看護の課題について、講義・発表・討議を通して理解を深める。				
第 1 回	危機的な状況にある人間の反応や立ち直りの過程を把握するための諸理論 (1)危機理論の理解	(山勢)		
第 2 回	危機的な状況にある人間の反応や立ち直りの過程を把握するための諸理論 (2)危機理論の実践・研究の動向	(山勢)		
第 3 回	危機的な状況にある人間の反応や立ち直りの過程を把握するための諸理論 (3)ストレスコーピングの理解	()		
第 4 回	危機的な状況にある人間の反応や立ち直りの過程を把握するための諸理論 (4)ストレスコーピング理論の実践・研究の動向	()		
第 5 回	危機に関する諸理論・概念の理解 (1)Loss/Crisis	()		
第 6 回	危機に関する諸理論・概念の理解 (2)Loss/Crisis	()		
第 7 回	危機に関する諸理論・概念の理解 (3)Social Support	()		
第 8 回	危機に関する諸理論・概念の理解 (4)Body Image	()		
第 9 回	急性期・重症患者の看護介入モデルの分析と評価 (1)危機的な状況から脱出し心身の回復過程にある患者へのアプローチ	()		
第 10 回	急性期・重症患者の看護介入モデルの分析と評価 (2)危機的な状況から脱出し心身の回復過程にある患者の家族へのアプローチ	()		
第 11 回	危機的な状況からの立ち直りの過程にある患者・家族の総合理解 (1)	()		
第 12 回	危機的な状況からの立ち直りの過程にある患者・家族の総合理解 (2)	()		
第 13 回	危機的な状況にある患者と家族に対する看護モデルの探究 (1)	()		
第 14 回	危機的な状況にある患者と家族に対する看護モデルの探究 (2)	()		
第 15 回	危機的な状況にある患者と家族に対する高度看護実践	()		
評 価 方 法	出席状況・討議内容 60 点、課題レポート 40 点として総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。その都度、必要な文献および論文を提示する。			
履修上の留意事項	本科目は急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「危機とストレスに関する科目」(2 単位)に相当する。 関連する文献や論文をあらかじめ読んで参加し、活発な討議を行う。授業の展開後は、主体的に最新の知見を学修し、臨床への応用をもって理解を深める。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。			

授 業 科 目 名	クリティカルケア看護学講義Ⅱ		専門科目	1 年次前期 2 単位
科 目 責 任 者	()			
到 達 目 標	急性・重症患者の看護診断技術、および自律した看護実践の関与を可能とする高度な知識と技術を修得する。さらに、急性・重症患者の代謝病態生理と必要な治療・処置を理解し、高度実践看護師として、クリティカルケア治療・療養環境を管理しながら、患者・家族が最善の医療を受けるための必要な知識を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：()、布宮伸・竹内護・三澤吉雄・水田耕一・佐久間康成・井上荘一郎・齋藤修(非常勤)				
○概要：急性・重症患者の看護診断技術、および自律した看護実践の関与を可能とする高度な知識と技術を修得する。急性・重症患者の代謝病態生理について成人を中心に理解し、小児ならびに高齢者の特徴も学修する。さらに、急性・重症患者の代謝病態生理と必要な治療・処置を理解し、高度実践看護師として、クリティカルケア治療・療養環境を管理しながら、患者・家族が最善の医療を受けるために必要な知識を、講義・討議を通して学修する。				
第 1 回	全身麻酔における治療管理	全身麻酔の原理、麻酔合併症	(竹内)	
第 2 回	手術侵襲と生体反応	(1) 内分泌系反応、Moore の理論	(井上)	
第 3 回	手術侵襲と生体反応	(2) SIRS・ARDS	(布宮)	
第 4 回	電解質異常と輸液管理	電解質の補正と治療	(布宮)	
第 5 回	急性呼吸不全と人工呼吸器	(1) 人工呼吸の種類と適応、管理	(布宮)	
第 6 回	急性呼吸不全と人工呼吸器	(2) 人工呼吸器による合併症と肺保護	(布宮)	
第 7 回	循環不全と治療管理	ファレスター分類、治療薬	(布宮)	
第 8 回	補助循環と治療管理	(1) 人工心肺、PCPS、VAS、IABP	(三澤)	
第 9 回	補助循環と治療管理	(2) 心移植と管理	(三澤)	
第 10 回	腎不全と治療管理	透析の全身管理と治療	(齋藤)	
第 11 回	肝移植と治療管理	(1) ドナーの全身管理	(佐久間)	
第 12 回	肝移植と治療管理	(1) レシピエントの全身管理	(水田)	
第 13 回	MOF のモニタリングに必要な生体情報	PCWP、SVO ₂ 、CVP、CO、他	(布宮)	
第 14 回	高度実践看護師としての看護診断技術と治療管理、最善の医療	(1)	()	
第 15 回	高度実践看護師としての看護診断技術と治療管理、最善の医療	(2)	()	
評 価 方 法	出席状況・討議内容 60 点、課題レポート 40 点として総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。その都度、関連する文献や最新の研究論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「クリティカルケア治療管理に関する科目」(2 単位) に相当する。 関連する文献や論文をあらかじめ読んで参加し、活発な討議を行う。授業展開後は、主体的に最新の知見について理解を深め、臨床への応用をもって学修を統合する。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。			

授 業 科 目 名	クリティカルケア看護学講義Ⅲ	専門科目	1 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	()		
到 達 目 標	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の心身の変化をアセスメントするために必要な高度な知識と技術について修得する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：()、間藤卓・山下圭輔・竹内護・布宮伸・川合謙介・多賀直行（非常勤） ○概要：集中的・高度な治療を必要とするクリティカルケアな成人を中心にフィジカルアセスメントについて学修し、小児ならびに高齢者の特徴も理解する。さらに、クリティカルならびにポストクリティカル状態にある成人の病態、生理学的変化ならびに生活行動、機能回復の状況を把握するためにシミュレーション教育を受けながら、高度な知識・技術と高度看護実践について修得する。			
第 1 回～2 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (1) 呼吸		(布宮)
第 3 回～4 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (2) 循環		(竹内)
第 5 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある小児の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (3) 小児		(多賀)
第 6 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (4) 中枢神経系		(川合)
第 7 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (5) トリアージ		(間藤)
第 8 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (6) 外傷		(山下)
第 9 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (7) 自殺企図		(間藤)
第 10 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (8) 廃用性症候群		(布宮)
第 11 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化を把握するためのフィジカルアセスメント (9) せん妄		(布宮)
第 12 回～13 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化ならびに生活行動、機能回復を把握するための観察枠組みの探究 (1)		()
第 14 回～15 回	集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者の病態と生理学的変化ならびに生活行動、機能回復を把握するための観察枠組みの探究 (2)		()
評 価 方 法	出席状況・討議内容 60 点、課題レポート 40 点として総合的に評価する。		
テ キ ス ト	指定しない。その都度、関連する文献や最新の研究論文を広く活用する。		
履修上の留意事項	本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「クリティカル状況のフィジカルアセスメントに関する科目」(2 単位) に相当する。関連する文献や論文をあらかじめ読んで参加し、活発な討議を行う。授業展開後は、主体的に最新の知見について理解を深め、臨床への応用をもって学修を統合する。履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。		

授 業 科 目 名	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	専 門 科 目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	()			
到 達 目 標	クリティカルな状況にある患者・家族を総合的に理解し、医学的治療ならびに療養生活における個人の選択・意思決定を支援するために必要な知識と技術を修得する。さらに、治療の選択や意思決定支援に伴う複雑な問題を解決するための実践力を養う。			
授 業 概 要				
○担当教員名：()、佐藤幹代、急性・重症患者専門看護師 茂呂悦子(非常勤)				
○概要： クリティカルな状況にある患者・家族を総合的に理解し、医学的治療ならびに療養生活における個人の選択・意思決定を支援するために必要な知識と技術を学修する。さらに、治療の選択や意思決定支援に伴う複雑な問題を解決するための実践力を養う。履修内容を踏まえ、クリティカルケアにおける患者・家族の意思決定支援に関する実践、高度実践看護師の課題について、臨地での演習を通して実践力を養う。				
第 1 回～2 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (1) 高度医療の管理下にある患者に生じやすい倫理的問題	()		
第 3 回～4 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (2) 高度医療の管理下にある患者家族に生じやすい倫理的問題	()		
第 5 回～6 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (1) 治療の選択・療養経過中に起こりうる倫理的問題	(佐藤)		
第 7 回～8 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (2) 治療の選択・療養経過中に起こりうる倫理的問題	(佐藤)		
第 9 回～10 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (1) 治療の選択・療養経過中に起こりうる倫理的問題を解決するための対応	()		
第 11 回～12 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (2) 治療の選択・療養経過中に起こりうる倫理的問題を解決するための対応	()		
第 13 回～14 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (1) 療養生活中に起こりうる患者の理解、選択と意思決定を支える看護	()		
第 15 回～16 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (2) 療養生活中に起こりうる家族の理解、代理意思決定を支える看護	()		
第 17 回～21 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (1) 臨床における倫理的課題に対する看護実践	(茂呂・)		
第 22 回～26 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (2) 臨床における倫理的問題に対する看護実践の分析と評価	(茂呂・)		
第 27 回～28 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (1) 倫理的課題に対する看護実践上の課題の探究	()		
第 29 回～30 回	クリティカルな状況にある患者と家族の総合的理解と倫理調整ならびに看護実践 (2) 倫理的課題に対する看護実践上の課題の探究	()		
評 価 方 法	出席状況・討議内容 60 点、課題レポート 40 点として総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。その都度、関連する文献・研究論文を紹介または提示する。			
履修上の留意事項	本科目は急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ」(2 単位) に相当する。 あらかじめ関連する参考文献・研究論文を読み、討議に積極的に参加する。授業展開後は、主体的に最新の知見について理解を深め、臨床への応用をもって学修を統合する。 履修する順序性は受講生と相談の上、変更する場合もある。			

授 業 科 目 名	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	()			
到 達 目 標	クリティカルな状況における人間の痛み・苦痛の緩和に関する看護実践力を養うために、痛みの原理・理論、治療、高度看護実践について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：()、佐藤幹代、井上荘一郎・木下佳子(非常勤)				
○概要：クリティカルな状況の患者における痛みの病態生理、痛み治療の現状と課題、患者および家族の心身の苦痛とその緩和について学修する。またクリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人および家族を理解し支援するための理論と方法を理解する。クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人および家族を支援する高度実践看護師の役割と機能について、事例ならびに文献を用いてその現状と課題を学修する。				
第 1 回	痛みの病態生理、 痛みの理解・把握 (1)			(井上)
第 2 回	痛みの病態生理、痛み治療の現状と課題(2)			(井上)
第 3 回～4 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (1)痛み・苦痛緩和に関わる原理・理論			()
第 5 回～6 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (2)クリティカルな状況における成人・家族の痛み・苦痛の特徴			()
第 7 回～8 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (3)クリティカルな状況における成人の痛み測定ツール (その 1)			()
第 9 回～10 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (4)クリティカルな状況における成人の痛み測定ツール (その 2)			()
第 11 回～12 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (5)クリティカルな状況にある循環器疾患患者の痛み・苦痛アセスメント			(佐藤)
第 13 回～14 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (6)クリティカルな状況にある消化器疾患患者の痛み・苦痛アセスメント			(佐藤)
第 15 回～16 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (7)クリティカルな状況にある呼吸器疾患患者の痛み・苦痛アセスメント			(佐藤)
第 17 回～18 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (8)痛み・苦痛の緩和をはかる看護実践 (薬理学的介入)			()
第 19 回～20 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (9) 痛み・苦痛の緩和をはかる看護実践 (非薬理学的介入Ⅰ)			()
第 21 回～22 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (10) 痛み・苦痛の緩和をはかる看護実践 (非薬理学的介入Ⅱ)			()
第 23 回～24 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (11) 痛み・苦痛の緩和をはかる看護実践の評価			()
第 25 回～26 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族の理解と看護実践 (12) 痛み・苦痛の緩和に関わる連携			()
第 27 回～30 回	クリティカルな状況で痛み・苦痛を抱える成人・家族を支援する高度実践看護師の役割と管理体制 (木下)			(木下)
評 価 方 法	出席状況・討議内容 60 点、課題レポート 40 点をとって総合的に評価する。			
テ キ ス ト	Morton P. G., Fontaine D.K., et al: Critical Care Nursing -A Holistic Approach. 9th, Lippincott Williams &Prevost S.2009; Chapter5 Relieving Pain and Providing Comfort. 46-61. Ian McDowell : Measuring Health. 3nd, Oxford University Press, 2006. 他、その都度、関連する文献・最新の研究論文を紹介または提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ (安楽・援助ケア)」(2 単位) に相当する。あらかじめ参考文献を読み、討議に積極的に参加する。授業展開後は、主体的に最新の知見について理解を深め、臨床への応用をもって学修を統合する。履修する順序性は受講生と相談の上、変更する場合もある。			

授 業 科 目 名	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	()			
到 達 目 標	急性・重症患者の代謝病態生理と必要な治療・処置を理解し、クリティカルケア治療・療養環境をマネジメントしながら、回復の促進に向けて、ケアとキュアを融合させた看護実践を行うためのアセスメント、高度実践について修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：()、佐藤幹代、綿貫成明・古賀雄二(非常勤)				
○概要：急性・重症患者の代謝病態生理と必要な治療・処置を理解し、高度実践看護師として、クリティカルケア治療・療養環境をマネジメントしながら、回復の促進に向けて、ケアとキュアを融合させた看護実践を行うために必要なアセスメント（看護判断・評価）、高度実践、評価方法についてシミュレーション教育を受けながら、講義・討議を通して学修する。				
第 1 回～ 2 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 急性呼吸不全			(古賀)
第 3 回～ 4 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 人工呼吸器装着			(古賀)
第 5 回～ 6 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 IABP 装着			(佐藤)
第 7 回～ 8 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 補助人工心臓 (VAD)			(佐藤)
第 9 回～10 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 心肺補助装置 (PCPS)			(佐藤)
第 11 回～12 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 援助関係と家族看護Ⅰ			()
第 13 回～14 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 援助関係と家族看護Ⅱ			()
第 15 回～16 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 援助関係と家族看護Ⅲ			()
第 17 回～18 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 急性意識障害			()
第 19 回～20 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 低活動型せん妄			(綿貫)
第 21 回～22 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 過活動型せん妄			(綿貫)
第 23 回～24 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 低体温療法			()
第 25 回～26 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 血液浄化法			()
第 27 回～28 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 ケアとキュアが融合した看護実践の探究Ⅰ			()
第 29 回～30 回	クリティカルな状況にある患者・家族の Assessment と高度看護実践 ケアとキュアが融合した看護実践の探究Ⅱ			()
評 価 方 法	出席状況・討議内容 60 点、課題レポート 40 点として総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。その都度、関連する文献や最新の研究論文を広く活用する。			
履修上の留意事項	本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ」(2 単位)に相当する。 関連する文献や論文をあらかじめ読んで参加し、活発な討議を行う。授業展開後は、主体的に最新の知見について理解を深め、臨床への応用をもって学修を統合する。 履修する順序性は受講生との相談の上、変更する場合もある。			

授 業 科 目 名	クリティカルケア看護学演習Ⅳ	専門科目	1 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	()		
到 達 目 標	救命・救急看護、集中治療看護、周手術期看護などのサブスペシャリティならびに看護ケアの専門性についての実践力を養うために、必要な高度看護実践について修得する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：()、佐藤幹代、茂呂悦子・上澤弘美・谷島雅子・渡邊好江（非常勤） ○概 要：救命・救急看護、集中治療看護、周手術期看護における看護ケアの専門性についての実践力を養う。 さらに、科学的な根拠に基づく質の高い看護ケアを探究するために最新の研究論文を批判的に読み、シミュレーション教育を受けながら、高度な看護実践方法について学修する。			
第 1 回	救命救急治療管理を受ける患者・家族の初期対応とトリアージ	(谷島・)	
第 2 回	救命救急を受ける外傷患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性	(谷島・)	
第 3 回	救命救急を受ける自殺企図患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性	(上澤・)	
第 4 回	救命救急治療を受ける CPA 患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性	(上澤・)	
第 5 回	救命救急を受ける熱傷患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性Ⅰ	(渡邊・)	
第 6 回	救命救急を受ける熱傷患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性Ⅱ	(渡邊・)	
第 7 回	集中治療を受ける鎮静患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性	(茂呂・)	
第 8 回	集中治療を受ける鎮痛患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性	(茂呂・)	
第 9 回	集中治療を受ける循環器疾患患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性Ⅰ	(佐藤)	
第10回	集中治療を受ける循環器疾患患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性Ⅱ	(佐藤)	
第11回	手術治療を受ける人工心肺装着患者の Assessment と看護ケアの専門性Ⅰ	()	
第12回	手術治療を受ける人工心肺装着患者の Assessment と看護ケアの専門性Ⅱ	()	
第13回	手術治療を受ける食道がん患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性Ⅰ	()	
第14回	手術治療を受ける食道がん患者・家族の Assessment と看護ケアの専門性Ⅱ	()	
第15回	サブスペシャリティならびに看護ケアの専門性における実践力	()	
評 価 方 法	出席状況・討議内容 60 点、課題レポート 40 点をもとに総合的に評価する。		
テ キ ス ト	他、その都度、関連する文献・最新の研究論文を紹介または提示する。		
履修上の留意事項	本科目は、急性・重症患者看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅳ」（2 単位）に相当する。あらかじめ参考文献を読み、討議に積極的に参加する。授業展開後は、主体的に最新の知見について理解を深め、臨床への応用をもって学修を統合する。履修する順序性は受講生と相談の上、変更する場合もある。		

授業科目名	クリティカルケア専門看護実習Ⅰ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科目責任者	()			
到達目標	高度医療の場において、集中的・高度な治療を要するクリティカル患者に特有の治療・処置および診断プロセスについて理解を深め、高度実践看護師として実践する中でそれらを活用し、自律した看護実践能力を培う。			
授 業 概 要				
○担当教員名：()、佐藤幹代、布宮伸・茂呂悦子・谷島雅子				
<実習概要> 高度医療の場において、集中的・高度な治療を要するクリティカルな患者に特有の治療・処置および診断プロセスについて理解を深め、高度実践看護師として実践する中でそれらを活用し、自律した看護実践能力を培う。高度医療の場における医療の特性と看護実践上の課題、高度実践看護師の活動の可能性とあり方を考察する。				
<実習目標> 1. 集中的・高度な治療を要するクリティカルな患者に特有の治療・処置および診断プロセスを理解する。 2. 集中的・高度な治療を要するクリティカルな患者の身体状態について専門的にアセスメントする。 3. 集中的・高度な治療を要するクリティカルな患者に対して、必要なケア・処置ができる実践力を培う。				
<実習方法> ・ 各自の関心領域・施設において、集中的・高度な治療を要する患者に特有の治療・処置および診断プロセス、高度実践力の修得、高度実践看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を熟考の上、実習要項に基づき計画書を作成し、実習を合計2週間以上にわたる行う。 ・ 日々の診断プロセス、実践した内容を実習記録に的確に表現する。 ・ 適宜、クリティカルケアチームメンバー、専門看護師または専門看護師相当の看護職と教員と共に、治療・処置および診断プロセス、高度実践について評価・検討会を行う。 ・ 実習を通して、治療・処置および診断プロセスにおける高度実践看護師としての自律した活動範囲について考察する。				
<実習期間> 2月～3月				
<実習施設> 1. 自治医科大学附属病院のICU、CCU、手術部、救命救急病棟および救急外来				
<実習指導者> 指導教員：佐藤幹代 臨地実習指導者：急性・重症患者看護専門看護師他、医師				
評価方法	実習目標達成度：実践状況、実習記録、ケースレポート、課題レポート、実習へ出席状況			
テキスト	指定しない。クリティカルケアならびにクリティカルケア CNS に関する最新の文献・書籍			
履修上の留意事項	本科目は急性・重症患者看護専門看護師教育課程の実習科目「クリティカルケア看護実習」(10 単位) の一部に相当する。 実習は、実習要項に基づき、指導教員ならびにクリティカルケア専門看護師のスーパービジョンを受けながら行う。 実習部門は、各自の関心領域に基づいて教員と相談の上、学修内容が網羅できる部門を決定する。			

授業科目名	クリティカルケア専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次前期	4 単位
科目責任者	佐藤 幹代			
到達目標	クリティカルな状態にある患者と家族に対する救急医療、集中治療、医療の特性と課題、高度な看護実践、調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の必要性とあり方、高度実践専門師の役割について学修する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：佐藤幹代、中村美鈴・茂呂悦子・谷島雅子・松沼早苗・福田侑子（非常勤）				
<実習概要> 重症・集中治療を受ける拘束状態に患者と家族のケアを行う部署において、複雑多岐に渡る病態ならびに対応が困難な患者・家族を受けもち、その患者の治療への反応に対する高度なアセスメントを踏まえた看護実践を行う。また、クリティカルな状況にある患者のケアにかかわる家族、看護職、他職種などに対しての調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の機能、リーダーシップを学習する。さらに実習を介して、クリティカルケア看護における高度実践看護師としての自己の課題を見出す。				
<実習目標> 1. クリティカルな状況にある患者と家族の身体的状態について専門的にアセスメントし、ケア・処置を実践する。 2. クリティカルな状況にある患者と家族の心身の苦痛を効果的に緩和し、安寧・安楽を図る。 3. クリティカルな状況にある患者と家族を取り巻く治療環境を総合的にマネージメントする。 4. ポストクリティカルな状況にある患者と家族に対する継続看護について洞察する。 5. クリティカルならびにポストクリティカル状況にある患者権利を擁護し、人間の尊厳を守り、倫理的問題に対して専門職として求められる意思決定について、判断プロセスを磨く。 6. クリティカルな状況にある患者と家族、ならびに看護師と他の保健医療スタッフとの中でリーダーシップを発揮し、実践・調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の役割を学ぶ。				
<実習方法> ・ 高度医療の場において、高度なアセスメント、実践力の修得、専門看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を熟考の上、実習要項に基づき計画書を作成し、実習を合計4週間以上にわたり行う。 ・ 重症・集中治療を受ける患者と家族に対して、治療への反応に関する高度なアセスメントを踏まえた実践をする ・ 専門看護師の高度実践、リフレクションにより自己の実践力を磨く。 ・ 日々の実践内容を実習記録、ケースレポートに的確に表現する。 ・ 適宜、クリティカルケアチームメンバー、専門看護師または専門看護師相当の看護職と指導教員と共に、看護について評価・検討会を行う。 ・ 実習を通して、クリティカルケア看護における高度実践看護師としての自己の課題を明確にする。				
<実習期間> 5月～11月				
<実習施設> *以下の1)もしくは2)のどちらかを選択 自治医科大学附属病院のICU、CCU、手術部、救命救急病棟および救急外来、関連病棟				
<実習指導者> 指導教員：佐藤幹代 臨地実習指導者：自治医科大学附属病院の急性・重症患者看護専門看護師他、CNS相当				
評価方法	実習目標達成度：実践状況、実習記録、ケースレポート、課題レポート、実習へ出席状況			
テキスト	指定しない。クリティカルケアならびにクリティカルケアCNSに関する最新の文献・書籍			

履修上の留意事項	＊本科目は急性・重症患者看護専門看護師教育課程の実習科目「クリティカルケア看護実習」（10 単位）の一部に相当する。 ＊実習は、実習要項に基づき、指導教員ならびにクリティカルケア専門看護師のスーパービジョンを受けながら行う。 ＊実習部門は、各自の関心領域に基づいて教員と相談の上、学修内容が網羅できる部門を決定する。
----------	---

授業科目名	クリティカルケア専門看護実習Ⅲ	専門科目	2 年次前期	4 単位
科目責任者	佐藤 幹代			
到達目標	ICU・CCU、救命救急など自己の関心領域におけるクリティカルな患者と家族に対して、看護実践、調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の必要性とあり方、高度実践看護師の役割について学修する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：佐藤幹代、中村美鈴・茂呂悦子・谷島雅子・松沼早苗・福田侑子（非常勤）				
<実習概要> 自己の関心領域において、重症・集中治療を受ける拘束状態にある患者と家族のケアを行う部署の中で複雑多岐にわたる病態ならびに対応が困難な患者を受けもち、治療への反応に対する高度なアセスメントを踏まえた看護実践を行う。全次救急では、初療での対応やトリアージを行う。また、クリティカルな状況にある患者のケアにかかわる家族、看護職、他職種などに対しての調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の機能、リーダーシップを学習する。さらに実習を介して、クリティカルケア看護における高度実践看護師としての自己の課題を見出す。				
<実習目標> 1. クリティカルな状況にある患者と家族の身体的状態について専門的にアセスメントし、ケア・処置を実践する。 2. クリティカルな状況にある患者と家族の心身の苦痛を効果的に緩和し、安寧・安楽を図る。 3. クリティカルな状況にある患者と家族を取り巻く治療環境を総合的にマネジメントする。 4. ポストクリティカルな状況にある患者と家族に対する継続看護について洞察する。 5. クリティカルならびにポストクリティカル状況にある患者権利を擁護し、人間の尊厳を守り、倫理的問題に対して専門職として求められる意思決定について、判断プロセスを磨く。 6. クリティカルな状況にある患者と家族、ならびに看護師と他の保健医療スタッフとの中でリーダーシップを発揮し、実践・調整・教育・コンサルテーション・倫理調整の役割を学ぶ。				
<実習方法> ・ 自己の関心領域において、高度なアセスメント、実践力の修得、専門看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を熟考の上、実習要項に基づき計画書を作成し、実習を合計4週間以上にわたり行う。 ・ 重症・集中治療を受ける患者と家族に対して、治療への反応に関する高度なアセスメントを踏まえた実践をする。 ・ 専門看護師の高度実践、リフレクションにより、自己の実践力を磨く。 ・ 日々の実践内容を実習記録、ケースレポートに的確に表現する。 ・ 適宜、クリティカルケアチームメンバー、専門看護師または専門看護師相当の看護職と指導教員と共に、看護について評価・検討会を行う。 ・ 実習を通して、クリティカルケア看護における高度実践看護師としての自己の課題を見出す。				
<実習期間> 5月～11月				
<実習施設> *以下の1)もしくは2)のどちらかを選択 自治医科大学附属病院のICU、CCU、手術部、救命救急病棟および救急外来、関連病棟				
<実習指導者> 指導教員：佐藤幹代 臨地実習指導者：自治医科大学附属病院の急性・重症患者看護専門看護師他				
評価方法	実習目標達成度：実践状況、実習記録、ケースレポート、課題レポート、実習へ出席状況			
テキスト	指定しない。クリティカルケアならびにクリティカルケア CNS に関する最新の文献・書籍			

履修上の留意事項	＊本科目は急性・重症患者看護専門看護師教育課程の実習科目「クリティカルケア看護実習」（10 単位）の一部に相当する。 ＊実習は、実習要項に基づき、指導教員ならびにクリティカルケア専門看護師のスーパービジョンを受けながら行う。 ＊実習部門は、各自の関心領域に基づいて教員と相談の上、学修内容が網羅できる部門を決定する。
----------	---

授業科目名	クリティカルケア看護学課題研究	専門科目	2 年次後期	4 単位
科目責任者	()			
授 業 目 標	講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実践上の課題について、取得を目指す急性・重症患者看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：() ○研究指導補助教員名:佐藤幹代 ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定する。 研究指導は、クリティカルケア看護専門看護実習の指導者による研究課題に関する直接的助言とともに、個別指導や領域内で開催される少人数指導によって行う。 急性・重症患者看護専門看護師教育課程の修了を目指す学生が、クリティカルケア看護専門看護実習で担当した患者、家族または集団、看護職を含むケア提供者や保健医療福祉に携わる人々を対象として、直接的ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究のうち、いずれかまたはいくつかの役割に焦点を当てて、看護実践の質の維持・向上に寄与する研究課題を設定する。設定したテーマに関する研究活動を展開し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。				
評 価 方 法	修士論文の研究課題に関する研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず「クリティカルケア看護専門看護実習」の全科目を履修しなければならない。			

授業科目名	クリティカルケア看護学特別演習	専門科目	2 年次通年	4 単位
科目責任者	佐藤 幹代			
到達目標	クリティカルケア看護に関する研究課題の明確化、研究課題に基づいた研究の進め方、研究成果の実践への応用について学修する。また、クリティカルケア領域における実践上の課題を見出し、専門的な援助・技術の向上のために改善・開拓する方法を修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：佐藤幹代				
○概要： クリティカルケア領域における各自が関心のあるテーマに合わせて文献を概観、ならびにクリティカルケア看護に関する論文をクリティークし、看護研究の方法について探究する。また、クリティカルケア看護に関する研究課題の明確化、研究課題に基づいた研究方法について学修し、研究計画書を作成する。				
第1回～2回	第1章	ガイダンス&看護研究とは何か、看護研究の重要性とその意義		(佐藤)
第3回～4回	第2・3章	看護研究の概要、看護研究のプロセスと科学的方法		(佐藤)
第5回～6回	第4章	研究課題に関して研究課題の明確化、および絞り込みの過程、前提条件など (佐藤)		
第7回～8回	第5章	文献検討	文献検討の意義、ならびにその方法	(佐藤)
第9回～10回	第6章	概念枠組みとモデル、理論的文脈での研究		(佐藤)
第11回～12回	第7章	仮説の組み立て 研究デザイン		(佐藤)
第13回～14回	第11・12章	研究設計の原理	標本抽出	(佐藤)
第15回～16回	第8章	各種研究方法：実験研究	実験研究方法論1	(佐藤)
第17回～18回	第9章	各種研究方法：実験研究	実験研究方法論2	(佐藤)
第19回～20回	第14・15章	各種研究方法：量的研究	量的研究方法論1	(佐藤)
第21回～22回	第17章	各種研究方法：量的研究	量的研究方法論2	(佐藤)
第23回～24回	第13章	各種研究方法：質的研究	質的研究方法論1	(佐藤)
第25回～26回	第19章	各種研究方法：質的研究	質的研究方法論2	(佐藤)
第27回～28回	第21章	研究データの分析、推測統計		(佐藤)
第29回～30回	第25・27章	研究計画書の作成、研究結果の応用		(佐藤)

第31回～32回 各自の研究課題に関連した文献検討の発表（佐藤）	
第33回～34回 クリティカルケアにおける関心のあるテーマに関する文献の概観（佐藤）	
第35回～36回 クリティカルケアにおける関心のあるテーマに関する文献の概観（佐藤）	
第37回～38回 各自の研究課題に関連した文献検討の発表（佐藤）	
第39回～40回 クリティカルケアにおける関心のあるテーマに関する文献の概観（佐藤）	
第41回～42回 各自の研究課題に関連した文献検討の発表（佐藤）	
第43回～44回 クリティカルな状況にある患者と家族に関する実践研究課題の明確化（佐藤）	
第45回～46回 クリティカルな状況にある患者と家族に関する実践研究課題の明確化（佐藤）	
第47回～48回 クリティカルな状況にある患者と家族に関する実践研究課題の明確化（佐藤）	
第49回～50回 クリティカルな状況にある患者と家族に関する実践研究課題の明確化（佐藤）	
第51回～52回 研究課題に基づいた研究計画書の作成（佐藤）	
第53回～54回 研究課題に基づいた研究計画書の作成（佐藤）	
第55回～56回 研究課題に基づいた研究計画書の作成（佐藤）	
第57回～58回 研究課題に基づいた研究計画書の作成（佐藤）	
第59回～60回 研究課題に基づいた研究計画書の作成（佐藤）	
評価方法	発表資料（60点）、討議内容（40点）など、総合的に評価する。
テキスト	・ 黒田裕子他監訳：看護研究入門―実施・評価・活用―、エルゼビア・ジャパン、2007. ・ D.F.ポーリット&B.P.、近藤潤子監訳：看護研究、原理と方法、医学書院、最新版 ・ ホロウェイ、ウィラー（野口美和子監訳）：ナースのための質的研究入門、医学書院 ・ 塩谷 実監訳：研究デザインと解析法、医歯薬出版株式会社、2002. ・ 岩崎学著：統計的データ解析入門ノンパラメトリック法、東京図書、2008. ・ 谷津 裕子：Start Up、質的看護研究、Gakken、2010. ・ その都度、関連する文献・研究論文を紹介または提示する。
履修上の留意事項	あらかじめ関連する参考文献・研究論文を読み、討議に積極的に参加する。 研究方法について主体的に学修し、修得した内容を自己の研究計画書と倫理申請の作成に応用し、提出にこぎつける。履修する順序性は受講生と相談の上、変更する場合もある。

授 業 科 目 名	精神看護学講義Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	我が国および海外の精神保健医療福祉の歴史や法制度および精神看護実践の発展過程について検討し、精神保健医療福祉の政策動向を把握して高度看護実践家の果たす役割について展望する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子 ○概要： 精神保健医療福祉の歴史と政策動向と高度看護実践の役割と活動について検討する。				
第 1～ 3 回	わが国の精神保健医療の歴史と看護 古代、近世、近代、現代の精神科医療を中心に			(永井)
第 4～ 6 回	精神障害者の権利と権利擁護の歴史と展望 地域生活・福祉を中心に			(半澤)
第 7～ 8 回	我が国の精神保健医療福祉政策の現状と動向 医療計画および改正精神保健福祉法の課題			(永井)
第 9～12 回	諸外国の精神保健福祉システムと看護実践 ヨーロッパ(イギリス・イタリア・北欧諸国) 北米 オセアニア アジア(韓国・台湾)等の精神保健福祉システム			(永井・半澤)
第 13～14 回	精神保健医療福祉における 高度な看護実践の発展過程と展望 精神看護学の基礎教育と継続教育の歴史と上級看護実践の発展			(永井)
第 15 回	まとめ:精神保健医療福祉における上級看護実践の役割			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションおよび討議内容で総合的に評価する。			
テ キ ス ト	1) 我が国の精神保健福祉(精神保健福祉ハンドブック)最新版 2) 立岩真也:造反有理、精神医療現代史へ、青土社、2013. 3) 岡田靖雄:日本精神科医療史、医学書院、2002. 4) 新福尚隆、浅井邦彦:世界の精神保健医療―現状理解と今後の展望、改訂版、へるす出版、2009.			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野共通科目「歴史・法制度に関する科目」(2 単位)に相当する。我が国の精神保健医療福祉に関する政策動向については事前に厚生労働省等の web サイト等を活用して踏まえておき、学生の研究テーマ等に関連させて検討できるように準備する。事後学修として学生の研究テーマと関連が深い政策や歴史的背景の影響について検討するとよい。			

授 業 科 目 名	精神看護学講義Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神看護において卓越した働きかけに必要な、対人関係論、セルフケア理論に関する最新の実践知識とエビデンスベースの実践との関係を理解し、看護実践の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子				
○概要： 心理社会的発達理論、精神力動理論、対人関係論、ストレス理論、家族理論、リカバリー論などについて 精神保健医療福祉領域におけるエビデンスに基づいて理解し、高度看護実践の課題を検討する。				
第 1～ 2 回	心理・社会的成長発達に関する理論 分離個体化理論(Mahler M.S.)と自己感の発達理論(Stern D.)			(永井)
第 3～ 4 回	精神力動理論と自我機能			(永井)
第 5～ 6 回	対人関係論			(永井)
第 7 回	ストレスと心身相関に関する理論			(永井)
第 8～ 9 回	Orem D.E. および Underwood P.R. のセルフケア理論			(永井)
第 10～11 回	家族に関する理論			(半澤)
第 12～14 回	リカバリーと精神障害者リハビリテーションに関する理論			(半澤)
第 15 回	まとめ:精神看護に関する理論の理解と高度看護実践			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションおよび討議内容で総合的に評価する。			
テ キ ス ト	1) 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり、野末聖香編集:精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009. 2) Tusaie K.R, Fitzpatrick J.J.Ed : Advanced Practice Psychiatric Nursing Integrating Psychotherapy, Psychopharmacology and Complementary and Alternative Approaches Across the Life Span, 3rd Edition, Springer, New York, 2022. 3) Riberman R.P.、西園昌久総監修:精神障害と回復、リバーマンのリハビリテーション・マニュアル、星和書店、2011. 関連文献は授業のなかで提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野共通科目「精神看護理論、援助技法に関する科目」(4 単位中の2 単位)に相当する。取り上げる理論の基礎的理解について自己学習のうえで、検討するプレゼンテーションのテーマを決定する。また、事後学修として研究テーマや高度実践とこれらの理論との関連について整理する。			

授 業 科 目 名	精神看護学講義Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	最新の精神科薬物療法を中心とした精神科治療と精神科診断に関する知識と理論について理解し、看護実践との関連を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、大塚公一郎、北田志郎（非常勤） ○概要： 精神疾患および障害の診断基準および臨床検査、および向精神薬の薬理作用と処方の原則、薬効の評価などを主とする精神科身体療法について理解し、精神科外来における診療に陪席することにより、見立てと治療に関する臨床判断を試み、担当医とともに検討する。最後に、精神科診断と治療に関する高度看護実践について、検討する。				
第 1～ 3 回	精神科診断法と診断基準 精神科診断面接と診断基準 DSM-5 および ICD-11 への移行上の課題			(大塚)
第 4 回	精神科臨床検査総論			(大塚・永井)
第 5 回	身体療法総論 無けいれん性電気けいれん療法、高照度光照射療法、等			(大塚・永井)
第 6～11 回	精神科薬物療法 病態に応じた向精神薬の処方の考え方と薬効・副反応の評価 抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬、感情調整薬、漢方薬、 抗認知症薬			(大塚・北田)
第 12～14 回	精神科外来における診断と治療の実際 精神科外来診療の見学演習			(大塚・北田)
第 15 回	精神科治療を受ける患者のアセスメントと看護援助			(永井)
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションおよび討議内容で総合的に評価する。			
テ キ ス ト	1) Stahl S. M, 仙波純一ら監訳:精神薬理学エッセンシャルズ、神経学的基礎と応用、第 4 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2015. 2) 長嶺敬彦:予測して防ぐ抗精神病薬の「身体副作用」—Beyond Dopamine Antagonism、医学書院、2009. 3) 稲田俊也、岩本邦弘:観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド、じほう、2014. その他の関連文献は、授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野共通科目「精神科治療技法に関する科目」(4 単位中の 2 単位)に相当する。事前に診断基準の改訂および精神科治療の最新の状況について概観できるように学修して、自己の看護実践上の課題に照らして学習課題を設定する。また、演習に出る前に経験する必要のある課題を絞って準備する。見学演習後に、診断および治療に関する自己の学習上の課題について明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	メンタルヘルス・エグザミネーション、精神力動、家族力動、心身相関などに関するアセスメント、リスクマネジメントなどの精神・身体状態の評価について演習を通して理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子、大竹眞裕美・釜英介（非常勤） ○概要： 高度な精神看護実践に必要な患者および家族の精神・身体・社会状況アセスメントと危機管理について、演習を通して理解する。				
第 1～2 回	メンタルヘルス・エグザミネーション			(永井)
第 3～4 回	精神力動的アセスメント			(永井)
第 5～6 回	精神障害者の家族のアセスメントと援助			(半澤)
第 7～9 回	精神科リスクマネジメント 精神科における事故防止と行動制限最小化ための援助			(釜)
第 10～11 回	自傷に関するアセスメントと援助演習			(永井)
第 12～13 回	自殺に関するアセスメントと援助演習			(永井)
第 14～15 回	攻撃性に関するアセスメントと援助演習			(永井)
第 16～18 回	精神障害者の身体合併症のアセスメントと援助			(大竹)
第 19～20 回	睡眠に関するアセスメントと援助			(永井)
第 21～22 回	社会的機能のアセスメントと援助			(永井)
第 23～29 回	総合アセスメント演習 精神看護の実践のなかで学生が関心のある病態をもつ事例の精神科診療に陪席し、臨床検査を含めて、精神および身体の総合的なアセスメントと診療場面のケアについて検討する。			(永井・半澤)
第 30 回	総合的アセスメント演習のまとめと上級看護実践			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業における討議内容（70%）、総合アセスメント演習プレゼンテーション（30%）			
テ キ ス ト	1) 釜英介：「リスク感性」を磨く OJT、人を育てるもう一つのリスクマネジメント、日本看護協会出版会、2004. 関連文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野共通科目「精神・身体状況の評価に関する科目」（2 単位）に相当する。事前に各回の評価領域に関して学生自身の学習課題を明らかにしたうえで、総合アセスメントの演習課題について、看護実践上の課題または研究テーマに照らして設定する。最終回終了後に、設定した自己の学習課題の達成状況を確認して、実習および研究活動に向けた課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神療法、認知行動療法、集団療法、リラクゼーション技法について演習し、複雑な背景や問題を持つ精神障害者のリカバリーにつながる看護実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子、大塚公一郎、小林聡幸・塩田勝利・須田史郎（非常勤） ○概要： 高度な精神看護実践に必要なとなる治療的アプローチについて、演習を通して教授する。				
第 1～3 回	精神療法と精神療法的援助方法			(永井)
第 4～6 回	集団力動理論と集団精神療法			(永井)
第 7～8 回	精神科身体療法の管理と看護			(永井)
第 9～10 回	心理教育的アプローチ			(永井)
第 11～13 回	認知行動療法			(永井)
第 14～16 回	Social Skills Training			(永井)
第 17～18 回	リラクゼーション技法 呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法			(永井)
第 19～20 回	アサーティブ・トレーニング			(永井)
第 21～30 回	精神科における治療的技法演習 精神療法、認知行動療法、薬物療法などの精神科治療を必要とする次にあがる病態の人とその家族に対して、診立ておよび治療方針と内容等について検討したうえで、治療に陪席し、医師との討議を通して治療とケアの課題について検討する。 ①気分障害圏の患者 ②不安障害圏の患者 ③精神病症状をもつ患者 ④認知症圏の患者 ⑤発達障害または摂食障害の患者			(永井・半澤・大塚 小林・塩田・須田)
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションおよび討議内容で総合的に評価する。			
テ キ ス ト	1) 土井健郎:新訂 方法としての面接、臨床家のために、医学書院、1992. 2) Gabbard GO、狩野力八郎監訳:精神力動的な精神療法、基本的テキスト、岩崎学術出版社、2012. 3) 堀越勝、野村敏明:精神療法の基本、支持から認知行動療法まで、医学書院、2012. 4) Tusaie K.R, Fitzpatrick J.J.Ed: Advanced Practice Psychiatric Nursing Integrating Psychotherapy, Psychopharmacology and Complementary and Alternative Approaches Across the Life Span, 3rd Edition, Springer, New York, 2022. 関連文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野共通科目「精神科治療技法に関する科目」(4 単位中の 2 単位)に相当する。事前に各回の治療技法に関する自己の看護実践上の課題を検討し、21 回以降の演習として取り組みたい事例について調整する必要がある。第 30 回終了後には、実習および研究活動に向けて治療技法に関する自己の看護実践上の課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神看護において卓越した働きかけに必要な援助方法、精神看護倫理と精神科ケアマネジメントおよびインタープロフェッショナルワークに関する知識と技術について演習を通して理解し、看護実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子、土屋徹・相澤和美（非常勤） ○概要： 重度な障害を持つ精神障害者に対する多職種チームにおける高度な看護実践について、ケアマネジメントと看護倫理および権利擁護の視点から検討する。				
第 1～2 回	チームビルディングと高度な看護実践			(永井)
第 3～4 回	精神科ケアマネジメントとインタープロフェッショナルワーク			(半澤)
第 5～6 回	地域精神保健医療システムとしての精神科救急ケア			(永井)
第 7～8 回	精神保健医療福祉におけるケアマネジャー			(半澤)
第 9～10 回	重症精神障害者のケアマネジメント方法 ICM、CBCM、ACT			(永井)
第 11～12 回	精神看護実践におけるコンコーダンスと Shared Decision Making			(永井)
第 13～14 回	症状自己管理と高度な看護実践			(半澤)
第 15～17 回	精神科訪問看護活動における高度な看護実践			(相澤)
第 18～20 回	当事者主体の地域精神保健活動と看護			(土屋・永井)
第 21～22 回	精神疾患早期介入と高度な看護実践			(半澤)
第 23～24 回	精神看護における倫理的判断と倫理調整			(永井)
第 25～29 回	地域移行・地域定着支援と高度な看護実践演習 学生が関心のある、比較的重症で長期または頻回入院をする人の退院調整から地域定着までのケアに関する連携・調整、倫理的課題について、高度な看護実践課題について検討する。			(永井・半澤)
第 30 回	まとめ			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業における討議内容(70%)、看護実践演習プレゼンテーション(30%)			
テ キ ス ト	指定しない。関連文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野共通科目「精神看護理論、援助技法に関する科目」(4 単位中の 2 単位)に相当する。重度な障害を持つ精神障害者の保健医療福祉に関する包括的な援助に関する自己の看護実践上の課題を検討して、25 回以降の演習計画を立案する。第 30 回のまとめでは自己の看護実践力について評価をして、実習および研究活動で必要とする看護実践上の課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅳ	専門科目	2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	最新の地域精神看護に関する理論と技術について理解し、高度実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子				
○概要：地域保健医療計画における精神保健福祉の位置づけ、行政保健師による精神保健看護活動や医療機関が提供する外来・アウトリーチによるケアに関する新しい知見を理解し、高度実践上の課題を検討する。				
第 1～2 回	地域保健医療計画と地域精神保健看護実践:総論			(半澤)
第 3～4 回	地域における精神保健医療福祉のアセスメント方法			(半澤)
第 5～6 回	地域における精神保健看護活動の評価			(半澤・永井)
第 7～9 回	地域における精神保健医療機関における看護活動 精神科外来、訪問看護、精神科デイケア等における看護			(半澤)
第 10～11 回	市町村保健師による地域精神保健看護活動			(永井)
第 12～13 回	都道府県保健師による地域精神看護活動			(半澤)
第 14～16 回	へき地等精神科医療過疎地域における精神看護活動 島嶼や中山間地における地域精神保健看護活動			(永井・半澤)
第 17～18 回	地域におけるアディクション看護活動			(永井)
第 19～20 回	地域における精神保健看護福祉活動および活動組織の創設			(半澤・永井)
第 21～23 回	Assertive Community Treatment と地域精神看護管理の実際 ACT の見学演習および地域精神看護管理の実際			(永井)
第 24～29 回	地域精神保健看護活動に関する演習 地域精神看護の実践のなかで学生が関心のある領域を選択し、文献検討により実践上の課題を設定して、選択したフィールドでフィールドワークを行ない、地域精神保健看護活動の特徴と課題を探究する			(半澤・永井)
第 30 回	演習のまとめ 地域精神看護における高度看護実践			(半澤・永井)
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションおよび討議内容で総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。関連文献は授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野専門科目「地域精神看護」(2 単位)に相当する。様々な地域における看護活動に関する自己の実践上の課題について検討し、24 回以降の演習の課題を設定する。最終回のまとめでは自己の看護実践力について評価し、実習または研究活動に向けた課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護学演習Ⅴ	専門科目	2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	最新のリエゾン精神看護に関する理論と技術について理解し、高度実践上の課題を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：永井優子、半澤節子、成田伸、岡島美朗(非常勤)				
○概要： コンサルテーション・リエゾン精神看護の目的と機能を理解し、一般科の患者における精神・身体状況の 相関とホリスティックなアプローチについて理解し、看護組織におけるリエゾン活動について検討する。				
第 1～2 回	医療におけるコンサルテーション・リエゾン活動の歴史と展望			(永井)
第 3～4 回	リエゾン精神看護の目的と機能、ホリスティック・アプローチ			(永井)
第 5～7 回	一般科におけるメンタルヘルス上の問題のある患者とその家族の アセスメント 〈不安、抑うつ、せん妄〉			(永井)
第 8～9 回	高い不安状態の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 10～11 回	抑うつ状態の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 12 回	せん妄状態の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 13～14 回	攻撃性の高い患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 15～16 回	慢性疾患の患者とその家族の理解とケア			(永井)
第 17 回	がん患者とその家族のケア-緩和ケアチームと精神腫瘍学の立場から			(岡島)
第 18～19 回	妊娠・出産とメンタルヘルス上の問題のアセスメントとケア			(永井・川野)
第 20～21 回	看護職のメンタルヘルス支援			(永井)
第 22～23 回	組織管理・変革者としてのリエゾン精神看護			(永井)
第 24～26 回	リエゾン精神看護活動の実際			(永井)
第 27～30 回	リエゾン精神看護 事例演習 学生が関心のあるリエゾン精神看護における課題を設定し、ケースコン サルテーション計画を立案する。			(永井・半澤)
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションおよび討議内容で総合的に評価する。			
テ キ ス ト	1) 野末聖香編:リエゾン精神看護、患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版株式会社、2004. 2) Tusaie K.R, Fitzpatrick J.J.Ed: Advanced Practice Psychiatric Nursing Integrating Psychotherapy, Psychopharmacology and Complementary and Alternative Approaches Across the Life Span, 3rd Edition, Springer, New York, 2022.			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野専門科目「リエゾン精神看護」(2 単位)に相当する。事前にリエゾン精神看護に関する自己の実践上の課題について検討し、事例演習の課題を設定する。事例演習終了後に課題の達成状況について評価して、実習および研究活動の課題を明確化する。			

授 業 科 目 名	精神看護専門看護実習 I	専門科目	1 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子		
到 達 目 標	精神看護分野における専門看護師の役割機能と医療施設における間接ケア(コンサルテーションおよびコーディネーション、教育、倫理調整活動)を中心に高度看護実践能力を修得する。		
授 業 概 要			
○担当教員名:永井優子、半澤節子 高度で先進的な精神科専門医療を提供している病院において 2 週間以上の実習を行う。受講生の臨床能力と学習ニーズに応じて、事前に医療施設の状況について見学等を行い、指導教員および実習指導者となる精神看護専門看護師の指導を受け、実習の準備を十分に行う。 精神専門看護師に必要な役割と機能を学ぶために、まず、精神看護専門看護師の活動に同行し、直接ケア、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理的調整などの役割と機能について全般的に参加観察を通して検討する。 直接ケアに関する精神看護専門看護実習Ⅱ計画立案の終了後に、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理調整などの間接ケアに関する場面に同行し、参加観察を通して精神看護専門看護師の活動の実際について学ぶ。さらに、実施について同意が得られた事例について実習指導者の指導を受けながらこれらの間接ケアを実施し、スーパービジョンを受ける。コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理調整について、各 1 例程度の実施を目標とする。 また、各実習日の最終に随時カンファレンスを行い、参加観察を行った精神専門看護師の活動の意図や使用した技法等について検討する。精神専門看護師および指導教員等からスーパービジョンを受け、これらの実践過程と今後の課題について最終カンファレンスにて発表し、最終的にレポートとしてまとめる。 実習施設 駒木野病院について 駒木野病院は精神科専門医療(チーム医療)に特化した病院で、地域に開かれた病院として、地域と病院をつなぐ様々な活動を行うサービスステーション駒木野(SSK)を設置し、精神科救急医療、児童精神科領域への対応など、様々なニーズに応えている病院である。			
評 価 方 法	精神専門看護師としての能力を実習の内容およびレポートで総合的に評価する。		
テ キ ス ト	指定しない。関連文献を活用する。		
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野実習(専門看護師の役割機能の実習 1 単位および医療施設におけるコンサルテーション・コーディネーション実習 1 単位)に相当する。事前に既修得科目の自己の実践能力を評価して学習課題を明確にして、実習施設の見学を行ったうえで実習計画を立案する。また、直接ケアに関する「実習Ⅱ」の実習計画立案中適宜および終了後に間接ケアの実習計画を立案する。実習終了後に各学習課題の達成度について総合的に評価して自己の看護実践上の課題を明確化し、課題研究テーマとの関連について検討する。		

授 業 科 目 名	精神看護専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次前期	6単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神科医療施設における精神科診断・治療と直接ケアを中心に、必要に応じて倫理調整、教育およびコーディネーションを含めて、高度看護実践に必要な能力について実践的に修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名:永井優子、半澤節子 高度で先進的な精神科専門医療を提供している病院において 6 週間以上の実習を行う。受講生の臨床能力と学習ニーズに応じて、事前に指導教員と実習指導者となる精神看護専門看護師の指導を十分に受け、実習部署を決定する。4 週間以上 3～5 事例程度に対して直接ケアを担当し、主治医および臨床心理士等の診断・治療の陪席等を行い、精神科の診断と治療に関するディスカッションを行うことを原則とする。また、精神看護専門看護師に必要な実践(セラピーを含む)上の指導と計画・評価に関する指導教員との相談と助言を得て、必要時コンサルテーション、連携、教育、倫理的調整を行う。精神看護専門看護師の指導は随時および指導教員等からのスーパービジョンは週 1 回以上受け、これらの実践過程と今後の課題についてケースプレゼンテーションを行い、最終的にレポートとしてまとめる。 実習施設 駒木野病院について 駒木野病院は精神科専門医療(チーム医療)に特化した病院で、地域に開かれた病院として、地域と病院をつなぐ様々な活動を行うサービスステーション駒木野(SSK)を設置し、精神科救急医療、児童精神科領域への対応など、様々なニーズに応えている病院である。 精神科デイケア(大規模)、精神科作業療法(通院・入院)、精神科訪問看護部門もあり、学生の関心のある実習部署と事例を選択して、継続的にケアを行う。				
評 価 方 法	精神専門看護師としての能力を実習の内容およびレポートで総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。関連文献を活用する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野実習(精神科診断治療実習 2 単位と直接ケア実習 4 単位)に相当する。事前に既修得科目の自己の実践能力を評価して学習課題を明確にし、実習施設の見学を行ったうえで実習計画を立案する。実習終了後に自己の看護実践上の直接ケア能力について総合的に評価して自己の看護実践上の課題を明確化し、課題研究テーマとの関連について検討する。			

授 業 科 目 名	精神看護専門看護実習Ⅲ	専門科目	2 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	永井 優子			
到 達 目 標	精神看護専門看護師のサブスペシャリティ(リエゾン精神看護または地域精神看護のいずれかを選択)における高度実践能力について実践的に修得する。			
授 業 概 要				
○担当教員名:永井優子、半澤節子 学生が地域精神看護領域またはリエゾン精神看護領域のいずれかをサブスペシャリティとして選択し、前者では高度で先進的な地域精神保健看護活動を行っている地域施設、後者ではリエゾン精神看護活動を行っている大学病院において2週間以上の実習を行う。 受講生の臨床能力と学習ニーズに応じて、事前に各施設の状況について見学等を行い、指導教員および実習指導者の指導を受け、実習の準備を十分に行う。2 事例程度に直接ケアを行い、コンサルテーション、連携、教育、倫理的調整に関する能力に焦点を当てて実習を自立して行い、フィールドノートに記録する。また、随時カンファレンスを行い、実習指導者および指導教員等からスーパービジョンを得て、これらの実践過程と今後の課題について最終的にレポートとしてまとめる。 地域精神看護領域の実習施設「NPO法人 多摩在宅支援センター円」および「株式会社 円グループ」 この法人は、2005 年 6 月に開設し、駒木野病院と同じ多摩地域にあり、連携をした活動をしており、2012 年 4 月から「株式会社 円グループ」としても活動を展開している。前者では、生活援助(グループホーム)および自立生活支援事業を行っている「櫻の杜ハウス[国立]/くぬぎの杜[八王子]」と短所入所(ショートステイ、「櫻の杜ハウス」のみ)を展開している。後者は、訪問看護ステーション 9 事業所と、相談支援事業所、地域活動支援センター、居宅介護支援事業所、在宅ケアセンター、放課後等デイサービスを展開し、「おーぷんだいにくぐ」や Parent Child Group 事業も行っている。学生の関心の高い部署を中心に実習を行う。実習指導者は各部署の施設長(看護師)を予定している。 リエゾン精神看護領域の実習施設 福島県立医科大学附属病院 39 診療科・778 床(一般 713 床、精神 49 床、結核 14 床、感染 2 床)をもち、福島県内の地域医療を支え、先進医療の充実や診療体制の整備に努め、多様化する医療に対する県民の期待に応えている県内唯一の大学附属病院において、リエゾン領域の精神看護専門看護師の活動について参加観察をし、リエゾン精神看護における対象とケアの場の特徴および専門看護師としての役割と機能を学ぶ。また、コンサルテーションの事例に関してスーパービジョンを受けながら、事例の理解を深めてケアの方法等を検討する。精神看護専門看護師の活動についての参加観察から、活動の評価を試み、専門性を高める。				
評 価 方 法	精神専門看護師としての能力を実習の内容およびレポートで総合的に評価する。			
テ キ ス ト	指定しない。関連文献を活用する。			
履修上の留意事項	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専門分野実習(サブスペシャリティ実習2単位)に相当する。選択したサブスペシャリティに関して、自己の看護実践能力について評価して実習課題を設定し、実習施設の見学を行って調整する。実習後には自己のサブスペシャリティに関する実践能力について総合的に評価し、自己の看護実践上の課題を明確化し、課題研究テーマとの関連について検討する。			

授 業 科 目 名	精神看護学課題研究	専 門 科 目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	永井 優子、半澤 節子			
授 業 目 標	講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実践上の課題について、取得を目指す精神看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：永井優子、半澤節子 ○研究指導補助教員名:なし ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定する。 研究指導は、精神看護専門看護実習の指導者による研究課題に関する直接的助言とともに、個別指導や領域内で開催される少人数指導によって行う。 精神看護専門看護師教育課程の修了を目指す学生が、精神看護専門看護実習で担当した患者、家族または集団、看護職を含むケア提供者や保健医療福祉に携わる人々を対象として、直接的ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究のうち、いずれかまたはいくつかの役割に焦点を当てて、看護実践の質の維持・向上に寄与する研究課題を設定する。設定したテーマに関する研究活動を展開し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。				
評 価 方 法	修士論文の研究課題に関する研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず「精神看護専門看護実習」の全科目を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	精神看護学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期	4 単位
科 目 責 任 者	半澤 節子			
到 達 目 標	精神保健看護に関連する文献検討、自らの関心領域の探求を踏まえて研究課題を焦点化し、研究計画書、研究倫理審査申請資料の作成までの一連のプロセスを学修する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：半澤節子				
第 1 回	オリエンテーション(半澤)			
第 2 回～第 10 回	精神保健看護に関する受講生の経験と研究テーマの検討(半澤) 受講生の精神保健看護に関する実践経験を踏まえながら、研究テーマを焦点化していく。			
第 11 回～第 20 回	先行文献の検討(半澤) 受講生の研究テーマに関連する先行文献を収集する。			
第 21 回～第 30 回	先行文献を踏まえた研究テーマの再検討 (半澤) 焦点をしばった文献検討および実践の場の分析を行い、現実的な研究課題を明らかにする。			
第 31 回～第 40 回	研究目的の設定とそれを明らかにするための研究方法の検討 (半澤) 先行文献で用いられている研究方法を概観しながら、自らの用いる研究方法を検討し、本研究における仮説を検討する。			
第 41 回～第 50 回	研究計画書の作成 (半澤) 先行研究を踏まえた研究の背景、研究目的、研究方法を記述し、研究計画書を作成する。			
第 51 回～第 60 回	研究倫理審査に必要な資料の作成 (半澤) 研究方法における倫理的課題について検討し、研究倫理審査申請書を作成する。			
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション内容(50%)、研究計画書及び研究倫理審査申請書の内容(50%)から総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	研究テーマに関連した文献について、受講生自らが収集し、活用する。			
履修上の留意事項	・ 受講生の研究テーマ、研究計画によって、授業の内容、進行は多少の変更を行う。 ・ 事前準備(予習)としては、「看護実践研究論」の授業で作成した研究計画書、関連文献のまとめなどを見直し、さらに関連する文献を入手し先行文献の流れについて予習しておくこと、大学の研究倫理審査に必要な資料について情報収集しておくこと。 ・ 事後の展開(復習)としては、研究を開始するために検討を要する事項について準備すること。			

授 業 科 目 名	がん看護学講義 I	専 門 科 目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がんの分子生物学、病因、疫学と予防、遺伝学、病態生理学、診断、治療法に関する最新知見を深め、治療に応じた身体管理方法の概要を理解する。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題を包括的にアセスメントする視点を修得し、最新のケア実践への適応について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、黒住昌史・山口博紀・柴山千秋・藤原慎一郎・高橋詳史（非常勤）				
○概要：がんの疫学、病態、診断、治療法についてがん看護に関連した専門的知識及び最新知識を自ら探求する。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して包括的なアセスメントする視点を捉え、最新のケア実践へ繋げる方策を探求する。				
○授業内容				
第1回	がん看護学総論			(小原)
第2回	がん診断・治療概論；e-learning（がんプロ全国 e-learning クラウド 共通知識：臨床腫瘍学概論）+課題学習			(山口)
第3回	がんの疫学と予防			(小原)
第4回	発がん浸潤・転移の分子生物学			(高橋)
第5回	がんの病理診断			(黒住)
第6～7回	がん患者とその家族に生じる健康課題の理解（1） ーがん診断期にある患者の病態生理および診断プロセスの理解と健康課題に関する事例検討ー			(小原・内堀)
第8回	抗悪性腫瘍薬の薬理学			(小原)
第9回	放射線腫瘍学			(柴山)
第10回	腫瘍外科学；e-learning（がんプロ全国 e-learning クラウド 専門知識：腫瘍外科学）+課題学習			(小原・内堀)
第11回	化学療法；e-learning（がんプロ全国 e-learning クラウド 専門知識：腫瘍外科学）+課題学習			(小原・内堀)
第12回	造血幹細胞移植			(藤原)
第13～14回	がん患者とその家族に生じる健康課題の理解（2） ー抗がん治療を受ける患者の病態生理および治療の理解と健康課題に関する事例検討ー			(小原・内堀)
第15回	課題学習とまとめ			
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（30％）、討議内容・授業への参加態度（30％）と各段階で求める課題レポート（40％）により総合的に評価を行う。 第2回、10回、11回は、e-learningコンテンツに応じたレポート課題を提示する。			
テ キ ス ト	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。			
履修上の留意事項	本科目は、がん看護学専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「がん看護に関する病態生理学」（2単位）に相当する。 事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。			

授 業 科 目 名	がん看護学講義Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科目責任者	小原 泉			
到 達 目 標	がん患者とその家族が抱える複雑な健康課題を理解する基盤となる概念や諸理論を学び、看護モデルへの適応を探究する方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓				
○概要：がん看護領域における実践・研究・教育の発展を概観し、がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念枠組み及び諸理論を理解する。またがん患者とその家族を理解するための基盤となる看護モデルを探究する方法を理解する。				
○授業内容				
第1回	がん看護領域における実践・研究・教育等の最新の動向			(小原)
第2～3回	がん看護領域における実践・教育・研究の臨床実践への活用			(小原)
第4回	がん看護領域における実践・研究のための基本的概念 (1)			(小原)
第5回	がん看護領域における実践・研究のための基本的概念 (2)			(小原)
第6回	がん看護領域における実践・研究のための概念枠組みと諸理論の探求 (1) ーストレス・コーピング理論ー			(小原)
第7回	がん看護領域における実践・研究のための概念枠組みと諸理論の探求 (2) ー危機理論ー			(小原)
第8～9回	がん看護領域における実践・研究のための概念枠組みと諸理論の探求 (3) ーセルフケア理論ー			(内堀)
第10回	がん看護領域における実践・研究のための概念枠組みと諸理論の探求 (4) ーケアリングー			(小原)
第11～12回	がん看護とその家族における概念枠組みと理論分析の探究 ー上記の理論を活用した文献考察及び理論分析ー			(小原・内堀)
第13～15回	がん患者とその家族における概念枠組みと看護モデルの探求			(小原・内堀)
評 価 方 法	プレゼンテーション内容 (30%)、討議内容と授業への参加態度 (30%)、各段階で求める課題レポート (40%) により総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野共通科目「がん看護に関する理論」(2 単位) に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分にに取り組むこと。			

授 業 科 目 名	がん看護学講義Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん診断期から終末期に至る様々な健康課題を抱えるがん患者と家族に対するグリーフケアを含め、緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供するために有用な資源、および資源の活用も含めた専門的な看護援助方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、武田祐子・藤本美生・水野道代・角田直枝（非常勤） ○概要：がん診断期から終末期に至る様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対して、がん看護の各領域（周手術期の看護、化学療法看護、放射線療法看護、遺伝性のがん看護、長期療養過程にある看護、終末期における看護、グリーフケア、地域看護）における緩和ケアを、系統的かつ体系的システムを提供するための専門的な看護援助方法の修得を目指す。				
第 1 回	術後機能・形態障害をもつがん患者と家族に対する専門的な看護援助方法			（小原）
第 2～3 回	化学療法を受けるがん患者と家族に対する専門的な看護援助方法			（小原）
第 4～5 回	放射線療法を受けるがん患者と家族に対する専門的な看護援助方法			（藤本）
第 6～7 回	遺伝性のがんをもつ患者と家族に対する専門的な看護援助方法			（武田）
第 8～9 回	長期療養過程にあるがん患者と家族に対する専門的な看護援助方法			（水野）
第 10～11 回	終末期のがん患者と家族に対する専門的な看護援助方法			（小原・内堀）
第 12～13 回	がん患者の家族に対するグリーフケアの専門的な看護援助方法			（小原・内堀）
第 14～15 回	地域におけるがん看護専門看護師の役割と機能			（角田）
評 価 方 法	授業への参加態度（準備、発表および討議内容を含む）（40％）、各段階で求める課題レポート（60％）により総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	指定しない。必要に応じて授業毎に提示する。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野共通科目「がん治療支援に関わる看護援助論」（2 単位）に相当する。 講師より事前に課題が提示された場合は、各自文献を収集して抄読し、考えをまとめて授業に参加すること。			

授 業 科 目 名	がん看護学演習 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科目責任者	小原 泉			
到達目標	がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して、最新の知見に基づいた系統的なアセスメントを行い、患者とその家族の苦痛及び苦悩を包括的に理解する方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓				
○概要：がん患者とその家族の複雑な健康問題を迅速かつ的確に臨床推論するため、最新の文献を活用しながら、エビデンスに基づいた系統的なアセスメントを行う方法を修得する。さらにがん患者とその家族の健康問題に対する全体像を把握し、患者とその家族の苦痛および苦悩を包括的に理解する方法を修得する。				
○授業内容				
第 1～6 回	がん患者とその家族の健康課題と系統的アセスメント方法 －身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの各側面から系統的に捉える症状アセスメントの基本－			(小原・内堀)
第 7～10 回	がん患者とその家族の症状アセスメント －診断期における健康課題を中心に－			(小原・内堀)
第 11～14 回	がん患者とその家族の症状アセスメント －急性期における健康課題を中心に－			(小原・内堀)
第 15～18 回	がん患者とその家族の症状アセスメント －リハビリテーション期における健康課題を中心に－			(小原・内堀)
第 19～22 回	がん患者とその家族の症状アセスメント －進行・再発期における健康課題を中心に－			(小原・内堀)
第 23～26 回	がん患者とその家族の症状アセスメント －終末期における健康課題を中心に－			(小原・内堀)
第 27～29 回	がん患者とその家族の健康課題の全体像 －関心の高いテーマについて、エビデンスに基づき系統的かつ包括的な症状アセスメントを実施し、がん患者とその家族の健康課題の全体像を探究する－			(小原・内堀)
第 30 回	課題学習とまとめ			(小原・内堀)
評価方法	プレゼンテーション内容 (30%)、討議内容・授業への参加態度 (30%)、各段階より求める課題レポート (40%) により総合的に評価を行う。			
テキスト	その都度、関連する文献・研究論文を紹介または提示する。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」(2 単位) に相当する。 事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。			

授 業 科 目 名	がん看護学演習Ⅱ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん看護の基盤となる概念や理論、および緩和医療の知識を活用した事例分析や看護介入モデルの展開を通して、緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、丹波嘉一郎（非常勤）				
○概要：がん患者とその家族が有する複雑で困難な健康課題を理解するための緩和ケアに関する最新の知識を探索する。またがん看護と緩和ケア領域に関連する文献検討や、事例分析を通して自己の看護観を洞察し、さらに看護モデルの分析及び看護介入方法を探索する。				
○授業内容				
第 1 回～4 回	がん患者とその家族が有する複雑で困難な健康課題を理解するため緩和ケアに関する最新の知見			
第 1 回	緩和医療学の基礎；e-learning（がんプロ全国 e-learning クラウド 専門知識：緩和医療学）＋課題学習（小原・内堀）			
第 2 回	精神腫瘍学の基礎；e-learning（がんプロ全国 e-learning クラウド 共通知識：精神・社会腫瘍学と患者教育）＋課題学習（小原・内堀）			
第 3 回	緩和医療学に関する最新知見（丹波）			
第 4 回	オンコロジー・エマージェンシー；e-learning（がんプロ全国 e-learning クラウド 共通知識：臨床腫瘍学概論の中の「oncology emergency/支持療法）＋課題学習（小原・内堀）			
第 5～12 回	がん看護と緩和ケア領域に関連する文献検討 ー第1～4回の講義を踏まえて、緩和医療を受けるがん患者とその家族の複雑で困難な健康課題 に関する文献検討ー（小原・内堀）			
第 13～20 回	がん看護領域に関連する諸理論を用いて実践事例の分析 ーストレス・コーピング理論、危機理論、セルフケア理論、ケアリングなどを用いて、複雑で困難な健康課題を有する実践事例の検討ー（小原・内堀）			
第 21～22 回	自己の看護観の洞察 ー第 13～20 回で検討した実践事例について、グループディスカッションを通して自己の看護観の考察ー（小原・内堀）			
第 23～26 回	看護介入モデル作成 ー第 13～20 回で検討した実践事例について、がん看護に関する理論や概念を用いて看護介入モデルの作成ー（小原・内堀）			
第 27～30 回	看護介入モデルの妥当性検討 ー看護介入モデルの分析・評価を通して、新たな看護介入方法を及びその妥当性の検討ー（小原・内堀）			
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（30％）、討議内容・授業への参加態度（30％）、各段階で求める課題レポート（40％）により総合的に評価を行う。 第1回、2回、4回は、e-learningコンテンツに応じたレポート課題を提示する。			
テ キ ス ト	指定しない。必要に応じて授業毎に提示する。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」（2 単位）に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。			

授 業 科 目 名	がん看護学演習Ⅲ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科目責任者	小原 泉			
到 達 目 標	緩和ケアに関するキュアとケアの方法について実践事例や国内外の文献をレビューし、キュアとケアを統合しエビデンスに基づいた緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓、平野勇太・藤原紀子（非常勤） ○概要：緩和ケアに関するキュアとケアの方法について実践事例や国内外の文献をレビューする方法を修得する。加えて、がん看護専門看護師が担う各機能（実践、教育、相談、調整、倫理、研究）を通して、キュアとケアを統合しエビデンスに基づいた緩和ケアを切れ目なく提供する方法の修得を目指す。 ○授業内容				
第 1～ 2 回	ガイダンス、文献レビューの方法			（小原・内堀）
第 3～ 6 回	高度ながん看護：実践機能の実際			（小原）
第 7～ 8 回	がん看護専門看護師の実践機能 －高度実践看護師の実践事例に関する文献抄読と討議－			（小原・内堀）
第 9～12 回	高度ながん看護：教育機能の実際			（内堀）
第 13～14 回	がん看護専門看護師の教育機能 －高度実践看護師の実践事例に関する文献抄読と討議－			（小原・内堀）
第 15～18 回	高度ながん看護：相談・調整機能の実際			（平野）
第 19～20 回	がん看護専門看護師の相談・調整機能 －高度実践看護師の実践事例に関する文献抄読と討議－			（小原・内堀）
第 21～24 回	高度ながん看護：倫理的な問題・葛藤と調整の実際			（藤原）
第 25～26 回	がん看護専門看護師の倫理調整機能 －高度実践看護師の実践事例に関する文献抄読と討議－			（小原・内堀）
第 27～28 回	がん看護専門看護師の研究機能 －自らの研究テーマを用いた討議－			（小原・内堀）
第 29～30 回	がん看護専門看護師の研究機能 －自らの研究テーマを用いた討議－			（小原・内堀）
評 価 方 法	授業への参加態度（準備、発表および討議内容を含む）（40％）、各段階で求める課題レポート（60％）により総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」（2 単位）に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。			

授 業 科 目 名	がん看護学演習Ⅳ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん診断期から終末期に至る複雑で困難な健康課題を抱えるがん患者その家族に対して、緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程を理解する。がん相談技法やがん患者教育的技法を、模擬患者などのシミュレーション方法を活用し緩和ケアの包括的介入方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓				
○概要：がん診断期から終末期に至るがん患者とその家族が抱えるあらゆる苦痛症状および苦悩を系統的かつ包括的に把握するため、緩和ケアに関連する実践事例展開を通して、適切なキュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程の修得を目指す。また薬物療法だけでなく理学療法的介入、心理的な支援などについて、模擬患者などのシミュレーション方法を活用し包括的介入方法の修得を目指す。				
○授業内容				
第 1～ 4 回	がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対し、キュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程の探求方法（1） —観察スキルの基本と緩和ケアに関連する実践事例の展開—			（小原）
第 5～ 8 回	がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対し、キュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程の探求方法（2） —症状アセスメント＜疼痛＞と緩和ケアに関連する実践事例の展開—			（小原・内堀）
第 9～12 回	がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対し、キュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程の探求方法（3） —症状アセスメント＜呼吸困難＞と緩和ケアに関連する実践事例の展開—			（小原・内堀）
第 13～16 回	がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対し、キュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程の探求方法（4） —症状アセスメント＜浮腫＞と緩和ケアに関連する実践事例の展開—			（小原・内堀）
第 17～20 回	がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対し、キュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程の探求方法（5） —症状アセスメント＜全身倦怠感＞と緩和ケアに関連する実践事例の展開—			（小原・内堀）
第 21～26 回	がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対し、キュアとケアを統合するため臨床推論・判断過程の探求方法（6） —シミュレーション技法（OSCE）を用いての、キュアとケアを統合する臨床推論・判断過程—			（小原・内堀）
第 27～30 回	がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合し提供するための包括的な介入スキル（薬物療法、理学療法的介入、心理的支援、教育的技法を含む） —シミュレーション技法（模擬患者）用いての、がん患者と家族の複雑で困難な実践事例の展開を通した包括的な介入方法の実際—			（小原・内堀）
評 価 方 法	授業への参加態度（準備、発表および討議内容を含む）（40％）、各段階で求める課題レポート（60％）により総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」（2 単位）に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分にに取り組むこと。			

授 業 科 目 名	がん看護専門看護実習 I	専門科目	2 年次前期	6 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん患者と家族に継続的かつ質の高い緩和ケアを提供する病棟、外来など様々な場において、専門看護師の役割・機能の実際、および高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実際を通して、創造的ながん看護ケア開発の方法を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓 ○実習概要 本実習は、緩和ケア専門実習、がん看護専門看護師（以下 CNS と略）役割実習および上級がん実践看護実習から成り、がん看護専門看護師に求められる系統的かつ包括的な実践能力を育成する。 <u>1. 緩和ケア専門実習：1単位</u> ＜目的＞CNS のスーパービジョンを受けながら、専門性の高い緩和ケアを提供するための看護活動および緩和ケアチームの実際を学ぶことを通して、継続的かつ質の高い緩和ケアを提供するための CNS の役割と機能を探求する。 ＜方法＞・期間：1週間・内容：緩和ケアを専門的に提供する場で看護活動に参加し、がん患者とその家族に対し、継続的かつ質の高い緩和ケアを提供するための緩和ケアチームの実際を学ぶ。CNS のスーパービジョンを受け、その役割と機能を探求する。 <u>2. CNS役割開発実習：2単位</u> 1) CNS役割実習（1単位） ＜目的＞CNSのスーパービジョンを受けながら、医療機関におけるヘルスケア提供システムのあり方及びCNSの役割と機能の実際を学ぶ。 ＜方法＞・期間：1週間・内容：がん看護専門看護師の活動状況の見学実習（カンファレンス参加を含む）やがん看護専門看護師からのスーパービジョンを通して、専門看護師の役割と機能を考察する。 2)在宅がん看護実習（1単位） ＜目的＞CNS のスーパービジョンを受けながら、医療施設から在宅へ療養の場を移行したがん患者およびその家族に対し、継続性かつ連続性のあるがん看護を提供するため、求められるヘルスケア提供システムのあり方及びCNS の役割と機能の実際を学ぶ。 ＜方法＞・期間：1週間・内容：退院調整機能及び退院後の在宅療養における看護師の活動の実際に見学・参加し、がん患者とその家族に対し、継続性・連続性のあるがん看護を提供するためのヘルスケアシステムの現状を把握する。CNSのスーパービジョンを受け、その役割と機能を探求する。 <u>3. 上級実践がん看護実習：3単位</u> ＜目的＞がん患者とその家族に対してがん看護を基盤とした高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の役割機能を遂行する能力を養う。 ＜方法＞・期間：4 週間以上・内容：がん患者とその家族に生じる包括的な健康課題に対して、高度な看護実践・教育・相談・調整・調整倫理を主体的な実践を通して探求する。CNSのスーパービジョンを受け、創造的ながん看護ケア開発を探求する。				
評 価 方 法	レポート評価、実習評価等により総合的に評価を行う。がん看護専門看護実習要項に詳細は記載する。			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「実習」（6 単位）に相当する。 実習の詳細は、がん看護専門看護実習要項を参照のこと			

授 業 科 目 名	がん看護専門看護実習Ⅱ	専門科目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がんの診断・治療に伴う臨床判断に基づいた身体管理方法の実際を通して、複雑な健康課題をもつがん患者およびその家族にキュアとケアを統合した看護ケア開発について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓				
○概要				
1. 実習内容				
外来および病棟でがん化学療法を受け、症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し、医師による臨床判断の内容や身体管理の方法を学ぶとともに、医師およびがん看護専門看護師のスーパーバイズの下で、患者の有害事象や苦痛の緩和に対する医学的な臨床判断の方法を理解し、キュアとケアを統合した看護援助を探究する。				
2. 実習期間				
4 週間				
3. 実習方法				
1)実習前準備				
学生は、各自が立案した実習計画書をもとに、実習指導者(医師とがん看護専門看護師)と事前面談をおこない、実習内容の調整をする。				
2)実習中				
(1) 学生は、担当する外来あるいは病棟でがん化学療法を受ける患者（以下、対象者）に関する医療情報について、電子カルテ等で情報を得る。				
(2) 学生は、医師の診察前に対象者と面談をする。				
(3) 学生は、対象者の有害事象や苦痛の内容および程度を包括的に把握し、その臨床判断過程を検討し記録する。				
(4) 学生は、対象者の有害事象や苦痛に対する身体管理方法を検討し記録する。				
(5) 学生は、医師の診察に同席し、自らが把握した患者の有害事象や苦痛の内容および程度、それらに対する臨床判断や身体管理方法の妥当性を確認する。				
(6) 学生は、診察終了後、自らの臨床判断や身体管理方法の理解を深めるため、医師からスーパーバイズを受け、適宜修正する。				
(7) 学生は、日々の実習終了後及び実習終了日に、がん化学療法を受ける患者及に対するキュアとケアを統合した看護援助を提供する方法を考察した内容について、医師、がん看護専門看護師、教員とともにカンファレンスをおこない其々の立場からスーパーバイズを受ける。				
3)実習終了後				
ケースレポート及び、自己の課題をレポートにまとめる。				
4. 実習場所				
自治医科大学附属病院				
評 価 方 法	レポート評価、実習評価等により総合的に評価を行う。がん看護専門看護実習要項に詳細は記載する。			
テ キ ス ト	日本臨床腫瘍学会編：新臨床腫瘍学（改訂第4版），南江堂, 2015. がん看護や専門看護師の役割に関する文献			
履修上の留意事項	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「実習」（4 単位）に相当する。 実習の詳細は、がん看護専門看護実習要項を参照のこと			

授 業 科 目 名	がん看護学課題研究	専 門 科 目	2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
授 業 目 標	講義・演習・専門看護実習をとおして見出された看護実践上の課題について、取得を目指すがん看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、研究指導を受けて修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：小原泉 ○研究指導補助教員名：内堀真弓 ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定する。 研究指導は、がん看護専門看護実習の指導者による研究課題に関する直接的助言とともに、個別指導や領域内で開催される少人数指導によって行う。 がん看護専門看護師教育課程の修了を目指す学生が、がん看護専門看護実習で担当した患者、家族または集団、看護職を含むケア提供者や保健医療福祉に携わる人々を対象として、直接的ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究のうち、いずれかまたはいくつかの役割に焦点を当てて、看護実践の質の維持・向上に寄与する研究課題を設定する。設定したテーマに関する研究活動を展開し、研究指導を受けて、修士論文を作成する。				
評 価 方 法	修士論文の研究課題に関する研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず「がん看護専門看護実習」の全科目を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	がん看護学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期	4 単位
科 目 責 任 者	小原 泉			
到 達 目 標	がん看護学領域における自らの関心領域に関連する文献考察を通して研究課題を明確にする。研究課題に基づいた研究の進め方、研究成果の実践への適用し評価するまでの一連のプロセスを理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：小原泉、内堀真弓 ○概要 がん看護学領域における自己の関心領域のテーマに関連する文献を概観し、クリティークし看護研究の方法について探究する。自己の関心領域に関連する文献検討より研究課題を明確にし、研究課題に基づいた研究方法について学修し、研究計画書を作成する。 <方法> 第 1 回～第 20 回：がん看護学領域における自己の関心領域のテーマに関連する文献を概観する。文献クリティークを通して看護研究の方法について探究する。 第 21 回～第 45 回：自己の関心領域に関連する文献検討の結果より研究課題を明確にする。 第 46 回～第 60 回：研究課題に基づいた研究方法について学修し、研究計画書を作成する。				
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（30％）、討議内容・授業への参加態度（30％）と、各段階で求める課題レポート（40％）により総合的に評価を行う。			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	事前準備として、関連する参考文献・研究論文を読み、討議には積極的に参加する。			

授 業 科 目 名	実践看護学特別研究	専門科目	2 年次後期	6 単位
科 目 責 任 者	半澤 節子			
授 業 目 標	実践看護学分野におけるいずれかの領域の講義・演習・特別演習をとおして明らかになった実践的課題の中から、実践看護学分野の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し、その課題について研究活動を展開し、修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：小原泉、永井優子、成田伸、半澤節子 ○研究指導補助教員名：佐藤幹代、角川志穂、田村敦子 ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究計画を立案し、研究活動を展開して、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定し、原則として入学時に学生に提示される。個別指導や領域内で開催される少人数指導を行う。 「母性看護学」領域 母性看護学の現状分析を踏まえ、さまざまな健康・生活状況にある母子とその家族に対する高度な看護・助産能力をもち、母性看護における専門的知識や研究課題を探究する。 「小児看護学」領域 小児看護学の現状と将来的な展望を踏まえ、さまざまな健康状況にある子どもがよりよく育つことを目的に、小児看護における専門的な知識や研究課題を探究する。 「クリティカル看護学」領域 集中的・高度な治療を必要とするクリティカルな状況にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛の緩和、悪化の予防に加え、危機的状況からの健康の回復と生活への適応に向けた専門的な看護実践に関する研究課題を探究する。 「精神看護学」領域 人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う精神看護における高度な実践専門職として、役割を果たすことができ、実践状況を変革できる研究課題を探究する。 「がん看護学」領域 我が国のがん医療の高度化・専門分化に伴い、がんによる健康障害各期(急性期・慢性期・回復期・終末期)の看護に関する領域のさらなる充実を目指し、特に、がん看護における専門的な知識や研究課題を探究する。また、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践に関する研究課題を探究する。				
評 価 方 法	修士論文の研究計画の立案、研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	本科目を履修する場合、必ず実践看護学分野におけるいずれかの領域の「特別演習」を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	老年看護管理学講義 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次			
到 達 目 標	高齢者看護の概念及び高齢期の特徴と健康課題を理解し、高齢者を対象とした看護管理について理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：浜端賢次、川上勝、上野まり ○概要：高齢者看護の概念及び高齢者の特徴と健康課題ならびに発達課題について教授するとともに、高齢者の看護管理に関する現状とその課題について検討する。				
第1回～第4回	高齢期の特徴と発達課題（浜端・川上） 高齢期の特徴とサクセスフル・エイジング 生涯発達理論（E.H.エリクソン）とGenerativity 高齢期と喪失			
第5回～第7回	高齢者看護に関連した諸理論（浜端） 高齢者看護に関連した諸理論やアセスメントの概要 ケアマネジメント、ケアリング・エンパワメント			
第8回～第9回	高齢者の意志決定と看護倫理（浜端） 高齢者の意志決定と看護倫理に関する問題と課題 高齢者の倫理的課題と権利擁護 認知症の告知、成年後見人制度等			
第10回～第12回	高齢者看護実践の現状（浜端・川上・上野） 高齢者看護の概念と高齢者看護や看護管理学の観点からの高齢者ケアの実践について			
第13回～第15回	高齢者と家族、高齢期の看護管理の現状と課題（浜端・川上・上野） 高齢者の家族形態の特徴と様々な課題 高齢者虐待、アドボカシー、 家族介護者に関する課題			
評 価 方 法	授業への参加態度（50%）、プレゼンテーションおよび課題レポート（50%）など総合的に評価する。			
テ キ ス ト	特に指定しない。国内外の専門誌や論文を用いる（高齢者に関する課題・重要度の高いトピックを取り上げる）。			
履修上の留意事項	事前学習として、推薦テキスト・資料等に目を通し不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後の学習としては、特に高齢者に関した重要事項や研究テーマに関連すると思われる所については、自己学習による深化を期待する。			

授 業 科 目 名	老年看護管理学講義Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次			
到 達 目 標	健康障害をもつ高齢者が社会資源を活用しつつ、最終発達課題である「死」を迎えて行くにあたり、終末期前後のケアや家族の様相及びエンパワメントについて体系的に理解し看護実践と研究課題を探究していく。			
授 業 概 要				
○担当教員名：浜端 賢次、川上 勝、上野 まり ○概要：健康障害にある高齢者が社会資源を活用し、終末期～「死」そして遺族へのケアについて学修する。同時に在宅看取りと家族及びエンパワメントについて探求する。また認知症高齢者の援助実践を包括的に理解し研究課題の探究に繋げる。				
第1回～第3回	高齢者の健康障害と生活を支える保健・医療政策の動向について（浜端・川上） 超高齢社会における高齢者の生活実態と健康課題 保健・医療・福祉を取り巻く実状とそれに対する施策や制度の在り方 超高齢社会と多死社会を支える高齢者看護に期待される役割			
第4回～第6回	高齢者とその家族の概念化とエンパワメントについて（浜端・川上・上野） 高齢者と家族のサポートシステムの実践・研究の動向 多様な場で生活・療養する高齢者と家族の研究の動向			
第7回～第10回	認知症高齢者ケアの史的変遷、実践・研究に関する動向について（浜端） 認知症高齢者ケアに関する国内の史的変遷 認知症高齢者ケアの実践・研究に関する動向			
第11回～第13回	在宅での看取りの実践・研究の最新の動向について（浜端・上野） 終末期の高齢者を看取る家族のニーズと支援 臨死期の看取り～遺族へのケアとスピリチュアリティの問題			
第14回～第15回	高齢者の終末期～遺族へのケアに関する研究の実際について（浜端・川上） さまざまな場における終末期の看護実践 研究課題と研究方法について文献等を用いた討論			
評 価 方 法	授業への参加態度(50%)、プレゼンテーションおよびレポート(50%)			
テ キ ス ト	指定しない。国内外の専門誌や論文を用いる。			
履修上の留意事項	事前学習として、学習課題を踏まえて不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後には、最新の文献による知見を確認し、高齢者看護における位置づけと問題点について思考を深める。			

授 業 科 目 名	老年看護管理方法 I	専門科目	1・2 年次前期 2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次		
到 達 目 標	生活要因や保健行動との関連から、高齢者の健康課題の評価方法や心身機能の保持・回復にかかわる専門的ケアの提供方法を検討する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：浜端 賢次、川上 勝 ○概要：高齢者看護に関する文献検討を通して、健康課題の評価の方法や専門的ケアの提供方法に関する課題を明確にする。			
第 1 回～第 7 回	生活要因や保健行動との関連から高齢者の健康課題を評価する方法の検討 (浜端・川上) ・生活習慣病（高血圧、糖尿病など）における高齢者の健康課題と評価方法 ・老年症候群やフレイルにおける高齢者の健康課題と評価方法 ・認知症における高齢者の健康課題と評価方法 ・入院や施設入所・施設利用、住み慣れた場における健康課題と評価方法 ・ICFの視点やCGAを活用したヘルスニーズの把握とアセスメント など		
第 8 回～第 15 回	高齢者の心身機能の保持・回復にかかわる専門的ケアの提供方法に関する検討 (浜端・川上) 高齢者の統合ケア（ICOPE）に関する検討 転倒予防、介護者支援、重度の認知機能障害、予防と心理的ウェルビーイングの向上、尿失禁などの加齢に伴う健康状態の管理、筋骨格系の機能・活動性、活力の向上、感覚機能の維持 など 地域包括ケアシステムにおける専門的ケアの検討 ・ Case（CI, Parkinson's Disease, Dementia など） ・ 地域包括リハビリテーション広域支援センターの役割 ・ 医療と介護の連携 ・ 多職種の協働・連携 ・ 市町村を中心とした行政の役割 ・ 入院中、施設利用中、在宅療養高齢者と家族（介護者）に対する看護		
評 価 方 法	授業への参加態度(50%)、プレゼンテーションおよびレポート(50%)		
テ キ ス ト	指定しない。研究成果に基づく関係論文を活用する。		
履修上の留意事項	事前学習資料等には目を通し、不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後の学習としては、特に高齢者に関した重要事項や研究テーマに関連すると思われる箇所については、自己学習による深化を期待する。		

授 業 科 目 名	老年看護管理方法Ⅱ	専門科目	1・2 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次		
到 達 目 標	高齢者の健康課題の評価方法や専門的ケアの提供方法から、高齢者の看護管理の課題について理解する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：浜端賢次、川上勝、上野まり			
○概要：高齢者の健康課題の評価方法や専門的ケアの提供方法に関する文献検討を通して、高齢者の看護管理の課題や展望について考察する。			
第 1 回～第 5 回	高齢者の看護管理の概要（浜端・川上） 高齢者にかかわる看護政策・施策 感染管理 リスク・マネジメント 認知症高齢者への対応 在宅の要介護高齢者 など		
第 5 回～第 10 回	高齢者の看護管理に関する課題の検討 1（浜端） 医療機関および介護保険関連施設における高齢者の看護管理の課題 施設におけるリスクとそのマネジメント 高齢者の看護管理のための連携 など		
第 11 回～第 15 回	高齢者の看護管理に関する課題の検討 2（上野） 訪問看護における高齢者の看護管理の課題 地域で生活する高齢者の看護管理の課題 なじみの場など 地域で暮らす高齢者の看護管理のための連携 など		
評 価 方 法	授業への参加態度（50%）、プレゼンテーションおよび課題レポート（50%）		
テ キ ス ト	指定しない。研究成果に基づく関係論文を活用する。		
履修上の留意事項	事前学習資料等には目を通し、不明点・問題点を明確化して授業に臨む。事後の学習としては、特に高齢者の看護管理に関する重要事項や自己の研究テーマに関連すると思われる箇所については、自己学習による深化を期待する。		

授 業 科 目 名	老年看護管理学演習	専門科目	1・2 年次後期 4 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次		
到 達 目 標	高齢者の看護管理に関連する研究を系統的に整理するとともに、医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等における高齢者に対する看護体制を評価検討し、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：浜端 賢次、川上 勝、上野 まり ○概要：高齢者の看護管理に関する国内外の文献を検討するとともに、医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等におけるフィールド演習を行い、高齢者に対する看護体制を評価検討する。老年看護管理学の講義の中から見出した課題も参考にして、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。			
第 1回～第10回	国内外の文献検討により、高齢者の看護管理に関する課題を検討する。		
第11回～第54回	医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等におけるフィールド演習を行い、高齢者に対する看護体制を評価検討する。		
第55回～第60回	文献検討、フィールド演習等に基づき、高齢者の看護管理に関する課題を探究する。		

授 業 科 目 名	老年看護管理学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期	4 単位
科 目 責 任 者	浜端 賢次			
到 達 目 標	高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための方法について、文献検討やフィールド演習等により多面的に検討し、改善・改革に関連する研究計画を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：浜端 賢次				
○概要：先行研究やフィールド演習等から、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。また、改善・改革に関連する研究計画を検討する。				
第 1 回～第10回	先行研究やフィールド演習等から、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。			
第11回～第50回	先行研究の知見を踏まえ、医療機関や高齢者施設、訪問看護ステーション等におけるフィールド演習を行い、高齢者の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。			
第51回～第60回	高齢者の看護管理に関する改善・改革に関連する研究方法を見出し、研究計画を検討する。			
</				

授 業 科 目 名	地域看護管理学講義 I	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	様々な地域の特性や健康課題並びに保健医療福祉政策を踏まえて、地域看護管理、特に健康生活を支援する地域看護体制づくりの理論と考え方を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、塚本友栄、島田裕子 ○概要：文献検討、並びに、近年の地域看護活動の現状とその課題の検討により、個人・家族・地域の特性に応じて主体的に住民が健康生活を送れるような看護活動や住みやすい生活環境づくり、継続看護や在宅看護のあり方、保健、医療、福祉、教育、産業に関わる職種や機関との連携・調整及び在宅ケアシステム、地域ケア体制づくりの理論と考え方を教授する。 授業形式：講義・討議・プレゼンテーション 第1回 オリエンテーション（春山） 第2回 ～ 第6回 地域看護管理に関係する主要概念（春山・塚本） 第7回 ～ 第8回 地域における看護活動体制づくり 1-ケアコーディネーション-（春山・塚本） 第9回 ～ 第11回 地域における看護活動体制づくり 2-地域ケアシステム-（春山・島田） 第12回 ～第13回 地域における看護活動体制づくり 3-ケアマネジメント-（春山・塚本） 第14回 ～第15回 地域資源の評価と開発に関わる看護活動（春山・塚本）				
評 価 方 法	授業への参加態度（30%）、プレゼンテーション（30%）、プレゼンテーション資料（40%）			
テ キ ス ト	国内外の関連する文献			
履修上の留意事項	事前準備（予習）として、看護活動体制づくりにかかわる自己の実践事例の振り返りをした上で授業に臨むこと。事後（復習）は、地域における看護活動体制づくりにかかわる実践事例を一つ取り上げ、本科目で学修した理論や考え方を適用して説明してみること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学講義Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	へき地の地域特性と人々のヘルスニーズを踏まえ、へき地における看護活動の特徴と看護活動の展開方法に関する理論を理解する。さらに、へき地における地域看護管理体制のあり方を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、島田裕子 ○概要：文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズを明確にするための地域診断の視点、並びに、へき地看護活動に関わる概念と看護活動の展開方法に関する理論を教授する。さらに、へき地における地域看護管理体制の現状とその課題から、へき地における地域看護管理体制のあり方を検討する。				
授業形式：講義・討議・プレゼンテーション				
第 1 回～ 第 2 回 へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点（春山） 第 3 回～ 第 6 回 へき地看護理論の基礎（春山） 第 7 回～ 第 11 回 へき地看護活動の展開方法（春山） 第 12 回～ 第 13 回 へき地で働く看護職を取り巻く状況と看護管理体制（春山） 第 14 回～ 第 15 回 へき地における健康危機管理体制と看護活動（島田）				
評 価 方 法	授業への参加態度（30%）、プレゼンテーション（30%）、プレゼンテーション資料（40%）			
テ キ ス ト	指定しない。必要時、授業の中で提示する。			
履修上の留意事項	事前準備（予習）として、地域診断を含む地域における看護活動の展開方法を確認した上で授業に臨むこと。事後（復習）は、へき地における看護実践事例を一つ取り上げ、本科目で学修した視点や理論を適用して説明してみること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理方法 I	専門科目	1・2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	塚本 友栄			
到 達 目 標	医療機関における地域連携体制の構築に関わる看護活動、ケース管理・地域ケア体制づくりを含む地域看護管理活動、ならびに、施策化・政策化に関わる看護活動の方法について、実践事例や先行研究から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：塚本友栄、春山早苗、田村須賀子（非常勤） ○概要: 人々のヘルスニーズに基づく看護提供のための地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法、施策化・政策化に関わる看護専門職の役割と看護活動の展開方法について、実践事例や先行研究の知見から検討する。				
第1回 ～ 第2回 地域看護管理の展開方法1－ケース管理と事業・業務管理に関わる看護管理プロセスとリーダーシップ（塚本・春山） 第3回 ～ 第4回 地域看護管理の展開方法2－組織運営管理と予算管理、人材育成・人事管理に関わる看護管理プロセスとリーダーシップ（塚本・春山） 第5回 ～ 第8回 退院支援と医療機関における地域連携体制の構築の実際（塚本） 第9回 ～ 第10回 保健看護ニーズに関わる政策決定過程と政策展開のプロセス（塚本・春山） 第11回 ～第12回 公衆衛生看護活動方法としての家庭訪問とケース管理（田村） 第13回 ～第15回 地域ケア体制づくりの展開方法（塚本・春山）				
評 価 方 法	授業への参加態度（20%）、事例分析資料（50%）、事例検討に基づく考察レポート（30%）			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	地域看護管理学講義 I で学修したことを復習して授業に臨むこと。事後（復習）は、地域看護管理活動または施策化・政策化に関わる看護活動にかかわる先行研究を一つ以上読み、看護活動方法について考えること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理方法Ⅱ	専 門 科 目	1・2 年次後期	2 単 位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	へき地の地域特性と人々のヘルスニーズを踏まえ、関係機関との連携・協働体制の構築に関わる看護活動、地域資源の整備状況を考慮した地域資源づくり、並びに、へき地における地域看護管理活動の方法について、実践事例や国内外の文献から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、塚本友栄、島田裕子 ○概要：へき地で生活する人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法、並びに、へき地における地域看護管理に関する課題と活動方法について、実践事例や国内外の文献を検討し、へき地における看護活動発展のための方法を考える。				
授業形式：講義・事例検討・討議				
第 1 回 ～ 第 2 回	山間へき地に住む人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 3 回 ～ 第 4 回	離島に住む人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 5 回 ～ 第 6 回	豪雪地帯に住む人々のヘルスニーズに基づく看護活動の展開方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 7 回 ～ 第 8 回	へき地における関係機関との連携・協働体制の構築に関わる看護活動の国内外の文献検討（春山・塚本）			
第 9 回 ～ 第 10 回	へき地における関係機関との連携・協働体制の構築に関わる看護活動の実際と展開方法の検討（春山・塚本）			
第 11 回 ～ 第 12 回	地域特性や地域資源の整備状況を考慮した地域資源づくりの方法に関する国内外の文献や実践事例の検討（春山・塚本）			
第 13 回 ～ 第 14 回	へき地における看護管理活動（健康危機管理を含む）と展開方法の検討（春山・島田）			
第 15 回	へき地における看護の質向上に関わる看護活動とへき地で働く看護職の確保と育成（春山・塚本）			
評 価 方 法	授業への参加態度（20%）、事例分析資料（50%）、事例検討に基づく考察レポート（30%）			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	地域看護管理学講義Ⅱで学修したことを復習して授業に臨むこと。事後（復習）は、へき地における看護実践事例を一つ以上読み、へき地における関係機関との連携・協働体制の構築および地域資源づくりを含むへき地における看護管理活動の方法について考えること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学演習	専 門 科 目	1・2 年次後期	4 単 位
科 目 責 任 者	塚本 友栄			
到 達 目 標	地域特性と人々のヘルスニーズの分析から、行政機関、訪問看護ステーション、地域中核病院、へき地診療所、へき地医療拠点病院等の地域における看護提供機関の看護体制を評価検討し、看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：塚本友栄、春山早苗 ○概要：地域特性と人々のヘルスニーズの分析、ならびに、フィールド演習から、地域における看護提供機関の看護体制を評価検討し、地域看護管理学の講義の中から見出した課題も参考にして、看護管理に関する改善・改革の課題を探究する。 演習は、以下のような実践活動を対象に行う。 1）学生が所属する保健医療福祉機関における看護実践活動 2）市町村、保健所、訪問看護ステーション、地域中核病院等における看護実践活動 3）へき地診療所、へき地医療拠点病院における看護実践活動 等				
評 価 方 法	演習への取り組み状況（60％）、レポート（40％）			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	地域看護管理方法Ⅰで学修したことを復習して臨むこと。事後は、本科目で探究した看護管理に関する改善・改革の課題を自己の研究的関心と照らし合わせ、研究目的の焦点化に活かすこと。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学特別演習	専 門 科 目	2 年次前期	4 単 位
科 目 責 任 者	春山 早苗			
到 達 目 標	地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための方法について、文献検討やフィールド演習等により多面的に検討し、改善・改革に関連する研究計画を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：春山早苗、塚本友栄、島田裕子 ○概要：文献、フィールド演習、討議から、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するために実行可能な方法を検討する。また、改善・改革に関連する研究計画を検討する。 授業形式：演習・レポート 演習は、以下のような保健医療福祉機関をフィールドとして行う。 1）学生が所属する保健医療福祉機関における看護実践活動 2）市町村、保健所、訪問看護ステーション、地域中核病院等における看護実践活動 3）へき地診療所、へき地医療拠点病院 等				
評 価 方 法	演習への取り組み状況（60％）、レポート（40％）			
テ キ ス ト	特に指定しない。			
履修上の留意事項	地域看護管理方法Ⅱで学修したことを復習し、また、地域看護管理学演習で学修したことを踏まえて臨むこと。事後は、文献検討を加え、研究指導教員による研究指導を受けながら、研究計画を精練すること。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学講義Ⅰ	専門科目	1 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	特定行為を含む看護技術である診療看護技術の安全性を高めるための開発・改善から提供システムづくりに必要な他職種・他部門との連携・調整および、在宅、介護施設、病院などでのチーム医療の在り方の理論と考え方を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人				
○概要：特定行為を含む看護技術である診療看護技術の概念および特徴について文献検討を行いつつ、診療看護技術の安全性を高めるための開発・改善から提供システムづくりに必要な他職種・他部門との連携・調整および、在宅、介護施設、病院などでのチーム医療の在り方の理論と考え方を教授する。				
第 1 回	科目ガイダンス・オリエンテーション	(村上)		
第 2 回	診療看護技術の概念及び特徴 (1) 看護技術とは	(村上)		
第 3 回	診療看護技術の概念及び特徴 (2) 診療看護技術に係る制度	(村上)		
第 4 回	診療看護技術の概念及び特徴 (3) 看護師の役割拡大とは	(村上)		
第 5 回	診療看護技術の概念及び特徴 (4) 看護職の専門性とは	(村上)		
第 6 回	診療看護技術の概念及び特徴 診療看護技術の提供システムづくりの主要概念 (1)	(村上)		
第 7 回	診療看護技術の概念及び特徴 診療看護技術の提供システムづくりの主要概念 (2)	(村上)		
第 8 回	診療看護技術の概念及び特徴 診療看護技術の提供システムづくりの主要概念 (3)	(村上)		
第 9・10 回	診療看護技術の研究における動向 対象の客観的情報に基づいた診療看護技術研究 (1) (2)	(長谷川)		
第 11・12 回	診療看護技術の研究における動向 対象の主観的情報に基づいた診療看護技術研究 (1) (2)	(長谷川)		
第 13 回	診療看護技術の提供システム研究の動向 (1) 看護実践者を中心とした評価・成果	(長谷川)		
第 14 回	診療看護技術の提供システム研究の動向 (1) 看護管理者を中心とした評価	(長谷川)		
第 15 回	診療看護技術の提供システム研究の動向 (1) 医療組織を中心とした評価・成果	(長谷川)		
評 価 方 法	授業への参加態度 (30%) プレゼンテーション (30%) プレゼンテーション資料 (40%)			
テ キ ス ト	国内外の関連する文献を中心とするが、必要時提示する			
履修上の留意事項	事前準備 (予習) として、看護技術、診療看護技術の概念や特徴に関する文献を一つ以上読んだ上で授業に臨むこと。事後 (復習) は、診療看護技術に係る実践事例を一つ取り上げ、安全性と有効性の観点から考察してみること			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学講義Ⅱ	専門科目	1 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	保健医療福祉制度や医療政策、組織特性などを踏まえ、継続教育を視野に入れた特定行為を含む看護技術である診療看護技術の教育体制のあり方とその実際を理解する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人 ○概要：保健医療福祉制度や医療政策、組織特性などを踏まえ、特定行為を含めた看護技術である診療看護技術を効果的かつ適切に用いるために必要な看護技術教育について教授する。特定行為研修を含めた看護技術教育の実際を教授するとともに、診療看護技術の実施上、管理上の課題に照らし合わせて診療看護技術教育プログラムの開発や有効性、妥当性を検討する。さらに、在宅、介護施設、病院など組織特性を踏まえた診療看護技術の教育体制の課題について検討する。				
第 1 回	科目ガイダンス・オリエンテーション	(村上)		
第 2 回	看護技術の教育上の特徴及び課題 (1)	(村上)		
第 3 回	看護技術の教育上の特徴及び課題 (2)	(村上)		
第 4 回	看護技術の教育上の特徴及び課題 (3)	(長谷川)		
第 5 回	診療看護技術の看護技術教育上の特徴 (1)	(村上)		
第 6 回	診療看護技術の看護技術教育上の特徴 (2)	(村上)		
第 7 回	診療看護技術の看護技術教育上の特徴 (3)	(長谷川)		
第 8 回	診療看護技術の継続教育上の課題 (1)	(村上)		
第 9 回	診療看護技術の継続教育上の課題 (2)	(長谷川)		
第 10 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラム開発 (1)	(村上)		
第 11 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラム開発 (2)	(長谷川)		
第 12 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラムの評価 (1)	(長谷川)		
第 13 回	診療看護技術教育のあり方 診療看護技術の教育プログラムの評価 (2)	(長谷川)		
第 14 回	診療看護技術の改善に係る教育的課題	(長谷川)		
第 15 回	診療看護技術の教育における今後の展望	(村上)		
評 価 方 法	授業への参加態度 (30%) プレゼンテーション (30%) プレゼンテーション資料 (40%)			
テ キ ス ト	国内外の関連する文献を中心とするが、必要時提示する			
履修上の留意事項	事前準備（予習）として、「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書」（厚生労働省 平成 15 年 3 月）、を一読した上で授業に臨むこと。事後（復習）は、診療看護技術の教育・管理事例を一つ取り上げ、診療看護技術教育のあり方を考察してみることに。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理方法Ⅰ	専門科目	1・2 年次前期	2 単位
科 目 責 任 者	長谷川 直人			
到 達 目 標	様々な医療現場における特定行為を含む看護技術である診療看護技術の提供体制の構築における倫理的課題、チーム医療の一員としての看護専門職としての役割について実践例や先行研究の知見から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：長谷川直人、村上礼子、八木街子 ○概要： 様々な医療現場における特定行為を含む看護技術である診療看護技術の安全な提供方法や医療現場の連携体制の構築、診療看護技術の提供体制の構築における倫理的課題、チーム医療の一員として診療に係る看護専門職としての役割などについて、実践事例や先行研究の知見から検討する。				
第 1 回 科目ガイダンス （長谷川）				
第 2 回～第 6 回 診療看護技術に関する文献の系統的検索 （長谷川・村上・八木） 看護技術の実践に関する研究疑問の検討 看護技術の実践に関する研究疑問に応じた系統的文献検索				
第 7 回～第 11 回 診療看護技術の実践事例に関する国内外の文献抄読及び討議（長谷川・八木） 看護技術の実践の現状と課題の検討 看護技術の提供・実施プロセスの検討 看護技術の実施に関する研究における倫理的課題の検討 診療看護技術の実践・提供体制に関連した文献レビューのまとめ				
第 12 回～第 15 回 診療看護技術の実施例の検討 （村上・長谷川・八木） 看護技術の実施に至る知見の検討 看護技術の看護実践上の課題の明確化 医療現場における提供体制づくりの課題の明確化				
＊関連する学会に参加して知見の検討を必須課題とする。				
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション（30%）、プレゼンテーション資料（20%）、レポート課題（50%）			
テ キ ス ト	専門誌からの論文を中心とする			
履修上の留意事項	事前準備として、診療に係る看護技術、看護管理の研究における倫理的課題について一考した上で臨むこと。事後は、本科目で探求した診療に係る看護技術、看護技術、教育看護管理における研究課題を自己の研究的関心と照らし合わせ、研究目的の焦点化に活かすこと。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理方法Ⅱ	専門科目	1・2 年次後期	2 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	特定行為を含む看護技術である診療看護技術の安全な提供のために、地域、組織特性を踏まえて組織内の関係職種との連携・協働体性の構築方法や診療看護技術の維持・向上のための教育活動の方法について、実践事例や国内外の文献から検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人、八木街子 ○概要： 地域、組織特性を踏まえて関係者、関係職種との連携・協働体制の構築方法や特定行為を含む看護技術である診療看護技術の維持・向上のための教育活動の方法について、国内外の文献から検討し、求められる診療看護技術の安全な提供体制構築のための方法を検討する。				
第 1 回	科目ガイダンス （村上）			
第 2 回～第 6 回	診療看護技術の教育方法に関する文献の系統的検索 (村上・長谷川・八木) 看護技術の教育方法に関する研究疑問の検討 看護技術の教育方法に関する研究疑問に応じた系統的文献検索			
第 7 回～第 11 回	診療看護技術の教育事例に関する国内外の文献抄読及び討議 (村上・長谷川・八木) 看護技術の教育にする現状と課題の検討 看護技術の教育プロセスの検討 看護技術に関する教育研究における倫理的課題の検討 看護技術の教育体制に関連した文献レビューのまとめ			
第 12 回～第 15 回	診療看護技術の教育事例の検討 （村上・長谷川） 看護技術の教育事例に必要な知見の検討 看護技術の教育展開上の課題の明確化 教育・管理体制づくり上の課題の明確化			
＊関連する学会に参加して知見の検討を必須課題とする。				
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション（30％）プレゼンテーション資料（20％）、レポート課題（50％）			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	事前準備として、診療看護技術管理学講義Ⅰならびに診療看護技術管理方法Ⅰで学修したことを踏まえて臨むこと。事後は、本科目で探求した診療に係る看護技術、看護技術教育、看護管理における研究方法上の課題を踏まえて、自己の研究方法を検討すること。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学演習	専門科目	1・2 年次後期	4 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	安全かつ安心な診療看護技術の開発・改善、提供方法や、病院、介護施設、在宅などにおける他職種との連携を踏まえた看護管理活動について、実践・評価を行い、診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題を探究する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人 ○概要：対象特性、地域・組織特性の分析を行ったうえでのフィールド演習から、安全かつ安心な診療看護技術の提供・管理方法、教育方法を評価し、病院、介護施設、在宅などにおける他職種との連携を踏まえた看護管理活動について、特定行為を含む看護技術である診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題を探究する。				
第 1 回 科目ガイダンス (村上) 第 2 回～第 21 回 診療看護技術の看護実践の展開 (村上・長谷川) 例 特定機能病院、地域中核病院等における看護実践 例 へき地医療拠点病院、訪問看護ステーション等における看護実践 第 22 回～第 41 回 診療看護技術の看護教育の展開 (村上・長谷川) 例 看護師特定行為研修、看護技術の教育展開 第 42 回～第 60 回 診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題の探究 (村上) * 演習フィールドは適宜検討する。 * 関連する学会に参加して知見の検討を必須課題とする。				
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション (50%) およびレポート課題 (50%)			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	事前準備として、診療看護技術管理方法ⅠおよびⅡで学修したことを踏まえて臨むこと。事後は、本科目で探究した診療に係る看護技術、看護管理等に関する改善・改革の課題を自己の研究目的・研究方法の検討に活かすこと。			

授 業 科 目 名	診療看護技術管理学特別演習	専門科目	2 年次前期	4 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
到 達 目 標	看護技術が必要なそれぞれの場の特徴を踏まえ、看護職の役割拡大に伴う安全・安心な診療看護技術の開発・改善、チーム医療の推進につながる医療提供システムづくりに取り組むための研究課題の明確化とその研究課題を解決するための研究方法を検討する。			
授 業 概 要				
○担当教員名：村上礼子、長谷川直人、八木街子 ○概要： 看護技術が必要なそれぞれの場の特徴を踏まえ、看護職の役割拡大に伴う安全・安心な診療看護技術の開発・改善、チーム医療の推進につながる医療提供システムづくりに取り組むための自己の研究疑問について、各種研究方法の学習とともに、文献の系統的レビューを行い、研究疑問の背景と研究課題の明確化を図り、その研究課題を解決するための研究方法を検討する。				
第 1 回 科目ガイダンス（村上）				
第 2 回～第 4 回 研究課題の明確化（村上・長谷川・八木） ・診療看護技術に関する実践経験を踏まえ研究テーマの検討				
第 5 回～第 10 回 研究課題の明確化（長谷川・村上・八木） ・診療看護技術に関する自己の研究疑問についての系統的文献レビュー				
第 11 回～第 20 回 研究課題の明確化（村上・長谷川・八木） ・診療看護技術に関する自己の研究疑問の背景の明確化				
第 21 回～第 30 回 研究課題の明確化（長谷川・村上・八木） ・診療看護技術の開発・改善を目的とする自己の研究課題の明確化				
第 31 回～第 40 回 研究計画の立案（村上・長谷川・八木） ・研究課題を解決するための研究方法の検討				
第 41 回～第 50 回 研究計画の立案（村上・長谷川・八木） ・研究背景、研究目的、研究方法を記述し、研究計画書を作成				
第 51 回～第 60 回 研究計画の立案（長谷川・村上） ・研究方法の倫理的課題について検討し、研究倫理審査申請書を作成				
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーション（50%）および研究計画書（50%）			
テ キ ス ト	特に指定しない			
履修上の留意事項	事前準備として、診療看護技術管理学講義Ⅰ・Ⅱならびに診療看護技術管理方法Ⅰ・Ⅱで学修したことを復習し、診療看護技術管理学演習での学修を踏まえて臨むこと。事後は、文献検討を加え、研究指導教員による研究指導を受けながら、研究計画を精錬すること。			

授 業 科 目 名	地域看護管理学特別研究	専 門 科 目	2 年次後期	6 単位
科 目 責 任 者	村上 礼子			
授 業 目 標	地域看護管理学分野におけるいずれかの領域の講義・演習・特別演習をとおして明らかになった実践的課題の中から、看護ケアや看護サービスを提供する技術や体制の改善・改革に関連する研究課題を設定し、その課題について研究活動を展開し、修士論文を作成する。			
授 業 概 要				
○研究指導教員名：村上礼子、塚本友栄、長谷川直人、浜端賢次、春山早苗 ○研究指導補助教員名：川上勝、八木街子 ○概要 入学時から各学生の関心のある研究課題について検討し、選択した領域の授業科目等において、研究指導教員の指導を受けて実施可能なテーマを決定し、研究計画を立案し、研究活動を展開して、修士論文を作成する。 ○方法 研究指導教員は、看護学研究科委員会において決定し、原則として入学時に学生に提示される。個別または領域内ゼミにより指導を行う。 「老年看護管理学」領域 地域で生活する健康な高齢者の健康の保持・増進または健康障害をもつ高齢者とその家族の健康と生活の支援を目的とした看護サービス提供システムや看護管理の改善・改革に寄与することのできる研究課題を探究する。 「地域看護管理学」領域 地域の特性と人々のヘルスニーズに応じた地域資源づくりや地域ケア体制づくり、施策化・政策化など地域のニーズに合った看護サービス提供システムや地域看護管理の改善・改革に寄与することのできる研究課題を探究する。 「診療看護技術管理学」領域 病院、介護施設、在宅などにおける人々への看護技術提供について、それぞれの場の特徴を踏まえた高い看護技術の開発・改善や看護技術提供システムづくりに取り組む研究課題を探究する。また、看護職の役割拡大に伴うスキルの開発・改善や、安全・安心な医療提供システムづくりに寄与することのできる研究課題を探究する。				
評 価 方 法	修士論文の研究計画の立案、研究活動の展開、論文執筆等の研究活動の経過(60%)およびその内容(40%)			
テ キ ス ト	指定しない。			
履修上の留意事項	選択した領域の特別演習で学修したことを活かして、研究計画を立案する。			

